始

本邦パルプ會社紹介

紡織雜誌社調査部調

紡織雜誌社發行

特250
72

はしがき

最近の新設パルプ會社，特に人絹用パルプ製造をめざす新設會社の簇立狀態は眞に目まぐるしいほどだ。而かもこれらを綜合的に整理・統一せる調査は未だ現はれてゐなかつたのである。

本社はかねて刊行諸雜誌の讀者諸氏より，製紙用・人絹用をあまねく包含せるパルプ會社の綜合的調査並びにパルプ會社一覽表の作成を要請されてゐた。しかし此の仕事の至難さは，讀者諸氏の再々の督促にもかゝはらず，その發表を意外に遲延せしめ，遂に「人絹界」第6卷第8號及び第9號に於いて，漸く責を塞ぎ得た次第である。けれどひと度發表さるゝや，各方面より再刷を頻りに要求され，茲に本冊子『本邦パルプ會社紹介』の刊行を見るに至つた。

本書もとより一般的解說書にして詳細なる會社批判ではない。片々たる小冊子ながら，幸にして斯業に關心を有せらるゝ士に裨益せば編者の望外の悅びとするところ，同時に本書の不備・誤點を敎示せられんことを乞ふ次第である。

尙，簡易曹達パルプ工場の全國的調査は本書に於いてこれを割愛し，「人絹界」昭和13年9月號に掲載した。有志の方は同誌を參照せられんことを。

昭和13年9月15日識

紡織雜誌社調査部

目　次

新原料パルプ編

パルプ飢饉對應策……1
バガスパルプ……3
臺灣興業……4
臺灣パルプ工業……5
新日本砂糖工業……6
臺灣製糖……6
稻藁パルプ……7
旭電化工業……8
ラサパルプ工業……8
大日本纖維工業……9
東武製紙工業……9
名古屋パルプ製造……9
三島工業……10
麥藁パルプ……10
倉敷絹織……10
岡山製紙……11
東邦化學工業……11
籾殼パルプ……11
富國人絹パルプ……11
葦パルプ……12
康德葦パルプ……12
東洋製紙工業……13
大豆稈パルプ……13
滿洲豆稈パルプ……14
桑條パルプ・萱パルプ……14
東京人絹……15
日本人造羊毛……15
マオランパルプ・其他……15
高千穗製紙……15
日本フラックスパルプ……16
燕麥稈パルプ……16
吉原製油……16
明治化工……16
帝國纖維パルプ……16

木材パルプ編

王子製紙……17
日本人絹パルプ……20
北鮮製紙化學工業……21
山陽パルプ……22
東北振興パルプ……22
北越製紙……23
北越パルプ……24
日曹人絹パルプ……24
日本パルプ工業……25
國策パルプ工業……26
大昭和製紙……28
太陽パルプ……29
高崎板紙……29
樺太木材紙料……30
東海紙料……30
高千穗製紙……31
日本製紙……31
巴川製紙所……31
浪速製紙……31
滿洲パルプ會社
東邦パルプ工業……32
滿洲パルプ工業……32
日滿パルプ製造……33
東洋パルプ……33
鴨綠江製紙……33
興安嶺パルプ(假稱)……34
【追補】
日本人造纖維(桑條パルプ)……34
附錄　人絹用 製紙用　全國パルプ製造會社一覽表

本邦パルプ會社紹介（其の一）

新原料パルプ

パルプ飢饉對應策

パルプの世界的飢饉の聲を聞いてから既に久しい。その原因として考ふべきものは，洋紙の需要漸增を除いて，原木の枯渇，新興纖維の著しき發展，主要生產國の輸出禁止或は制限，製造機械設備の完成遲延等が最も大きな原因を爲してゐる。殊に日本に於いては爲替管理の强化により，最近の生產增加にかゝはらず，今や甚しいパルプ飢饉におそはれてゐるのである。即ち生產量は昭和８年の 620,039 噸から昭和12年の 886,978 噸に激增してゐるが，輸入量も亦同期間に於いて 159,975 噸から 466,729 噸に著增してゐる。昨年度丈けについて見れば下表の如くである。

〔昭和12年度パルプ需給〕　—單位，噸—

	生產量	輸入	輸出	需要
製紙用	829,684	176,131	2,600	1,003,215
人絹用	57,294	290,598	—	347,892
計	886,978	466,729	2,600	1,351,107

即ち全體としての自給率は67％であるが，人絹用パルプについて見れば僅か 20.4％に過ぎない。然らばわが國のパルプ自給の見透しはどうか。

昭和17年迄のパルプ需要豫想高は次の如くである。（單位千噸）

	製紙用	人絹用	ス・フ用	セロファン用	計
昭和14年	1,030	191	192	10	1,423
〃 15年	1,080	200	216	11	1,507
〃 16年	1,130	211	240	12	1,593
〃 17年	1,190	221	258	13	1,682

これに對して企劃院は昭和13年度より始まるパルプ增產５ケ年計畫を樹て，以てパルプの自給を圖らんとしてゐる。

最終年度（昭和17年）に於ける豫定生產量（單位千噸）

1　現在設備による生產高	871
2　既設々備の擴張增產	32
3　現在起工中の工場生產高	80

（山陽パルプ，日本パルプ工業，日曹人絹，北越パルプ）

4	國策パルプ會社による生産	162
5	東北振興パルプによる生産	50
6	バガス・パルプ	100
7	大豆稈パルプ	55
	（小　　計）	1,350
8	滿洲國よりの輸入	300
	合　　計	1,650

しかし此の計畫に對して最大の障害となるものは原木の不足である。殊に人絹用パルプに於いて然り。大體人絹用パルプの具有すべき條件としては下記の如きものが必要とされてゐる。

α纖維素	88%以上
β纖維素	5%以下
リグニン	痕跡をとゞめても不可
パルプの銅價	0.8～1.5%
γ纖維素銅價	0.5～0.6%
灰分	0.3%以下
色	純白
粘度	パルプ0.5%の酸化銅アムモニア溶液の粘度は大體落球速度10℃30°Béのグリセリンを100とした時）

これらの條件に適合せる原木は樺太，北海道產の針葉樹（主としてエゾマツ，トドマツ等）であるが，從來の過伐の結果その資源は甚だ貧弱となつてゐる。又滿洲國に於ける林產も正確な調査によれば，人絹用パルプの需要に對應するには樂觀を許さざる狀態にあるといふ。然らば最近擡出する新原料によるパルプはどうであらうか。現在のところでは全體的に見て先づ人絹用には不適である。技術的，工業的に尙幾多の問題が殘されてゐる。

薗部一郎博士の說によれば纖維原料は大體下記の如く級別され得る。

第1級　たぶひ屬，もみ屬，つが屬の針葉樹
第2級　カラマツ屬，マツ屬の針葉樹
第3級　杉，檜其他の針葉樹及びあらゆる濶葉樹，禾本科植物
第4級　桑條，棉莖，豆莖等作物のカラ
第5級　潛木，雜草，海草等

從來人絹用パルプには主として第1級が充當せられてゐたが，更に第2級及び第

3級からも人絹用パルプを製造することが刻下の緊急問題である。而して新原料パルプは主として製紙用に振り向けるべく其の增產策を講ずること。前掲パルプ自給5ケ年計畫によれば昭和17年度の新原料パルプ生產高はバガスと大豆稈による15萬5千噸であるが，この分野は更に擴充せられねばならぬ。上記の2種のみならず，他の種の新原料による代用パルプの生產增加を圖らねばならぬ。

茲に於いてパルプ自給計畫の遂行は，（a）木材は出來るだけ人絹用パルプ生產に當て以て人絹用パルプ原木の枯渴を防ぐこと，（b）新原料パルプは主として製紙用に用ひ其の積極的增產をはかること，（c）滿洲國を含む全國の造林政策を徹底的に樹て直すこと，（d）人絹，ス・フ，の全面に亘り統制を强化すること，を要請するのである。

パルプ飢饉時代に於いて新原料によるパルプが持つてゐる役割はまことに大きい。以下代用パルプ會社に就いて綜合的に簡單に紹介しよう。

新原料によるパルプ製造會社

（計畫中のものを含む）

バガス・パルプ——臺灣興業，臺灣パルプ興業，新日本砂糖工業，臺灣製糖
稻藁パルプ——旭電化，ラサパルプ工業，大日本纖維工業，名古屋パルプ製造，東武製紙工業，大阪曹達，鐵興社，等
麥藁パルプ——倉敷絹織，岡山製紙，東邦化學工業
粃殼パルプ——富國人絹
芋パルプ——康德藁パルプ，東洋製紙工業
桑條パルプ——東洋紡績，東京人絹
大豆稈パルプ——滿洲豆稈パルプ
燕麥稈パルプ——（樺太）燕麥稈パルプ
萱パルプ——日本人造羊毛
海草パルプ——帝國纖維，明治化工
マオラン・パルプ——高千穗製紙，日本フラックスパルプ
リンター・パルプ——吉原製油
落棉パルプ——大日本紡績

バガスパルプ

所謂新原料パルプの中でバガスは最も早くより企業化された。即ち昭和製糖の前

身臺南製糖が大正8年にバガスからハトロン紙を小規模に製造したのが嚆矢だ。

バガスとは甘蔗の搾り滓である。臺灣に於ける全島製糖工場からの生産高は毎年約150萬噸に達する。從來はこの殆ど全部は燃料として用ひられてゐた。バガスの性質は

全纖維素	47～57%
ペントザン	21～28%
リグニン	16～18%
灰分	1.5～5.6%

であるから，パルプ資材としては相當優秀なものである。いま上記150萬噸の全部をパルプにするとすれば，收率24%と見て約36萬噸のパルプが得られるわけであるが實際はそう簡單に行かない。即ち石炭問題が難關として横たつてゐる。

從來バガスを燃料としてゐた製糖工場が全部石炭を使ふならば約100萬噸の石炭が要る。バガスパルプ1噸製造するには約1噸半の石炭を要するからパルプ製造に約54萬噸，合計154萬噸の石炭が要るわけだ。臺灣の石炭年産高は170萬噸（增産計畫完了すれば220萬噸）であるが，現在臺灣の工業化が强調せられてゐるから消費は190萬噸に達してゐる。島内の石炭增産は220萬噸以上望めない事情にあるとすればパルプ製造用の石炭はどうするか。業者は不足分を滿支炭に仰ぐ積りらしいが，現在の樣に北支炭の出廻り惡く炭價が昂騰してゐては，これも一寸困難である。しかも日本に於ける工業の發展に伴ふ全般的なる石炭供給不足により，こゝ數年は以上の狀態が續くものと覺悟されねばならぬ。しかし此の點さへうまく行けば，用水の水質問題や原料・製品の輸送力問題等もあるが，バガスパルプは充分企業化され得る强味を持つてゐる。

バガスパルプの製法は一般に亞硫酸法，曹達法，硫酸鹽法等によつてゐる。本誌前月號にて大阪工業試驗所藤永技師の報告された硝酸法は優れた製法であるが，未だ用ひられてゐない樣である。

臺灣興業

濁水溪流域一帶に簇生する多年生の植物に鬼萱といふのがある。長さは 1.0～1.5丈，莖の太さはステツキほど，纖維長は最大4m.m. 最小1.3m.m. である。これはパルプ原料として歩留りも比較的良好であるが，臺灣興業株式會社はこの鬼萱からパルプを製造することを目的として昭和10年3月，大川系により創立されたものである。

これよりさき，王子製紙・富士製紙・樺太工業の3社合併のため活動舞臺を失つた大川系は，臺灣に於ける新事業として臺灣紙業株式會社を興し，臺南製糖の子會社三亞製紙（昭和6年解散）の事業を繼承してバガスパルプの製造を開始した。臺灣紙業は當業者の苦心によりその事業は印刷用紙，便箋用紙等を製造し得る迄に成功したが，更に規模擴張のため昭和11年12月同系の臺灣興業と合併したのである。

臺灣興業の現在生産高は二結，羅東兩工場で28,000噸であるが，バガスと鬼萱から別々にパルプを造つてゐるのではない。鬼萱は纖維があまりに細過ぎて紙に抄いた場合それ丈けでは破れ易い。ところがバガスパルプに混ぜると（バガス70%，鬼萱30%）非常に成績がよい。もともとバガスパルプは若干の木材の混用を必要とするが，これが鬼萱で間に合ふとすればコストが安くつくので，當社の立場は大變有利なわけだ。しかしこの有利な立場も最近稍失はれかけてゐる。第1は原料鬼萱の蒐集難である。連年採集の結果地力が衰へ收獲高が減少してゐるといふ點である。第2はバガスの供給難である。最近の樣に製糖會社がバガスパルプ工業に乗り出してくると，製糖工場から原料を仰いでゐる當社へは入らなくなる。そこで當社は島内森林資源の開拓に積極的に乗り出したわけだ（最近羅東郡大平山の廢材を獲得した）。尙巷間には當社の現在資本金500萬圓を200萬圓に減資の上臺灣パルプ工業に合併されるといふ話も傳はつてゐる。

重役 〔會長〕田中榮八郎〔社長〕松平眞平〔專務〕大川鐵雄〔常務〕迫本實〔取締役〕大川義雄，太田清藏，柴田義一，井上源之亟，伊藤善三郎〔監査役〕下郷傳平，石川正作，井口誠一，渡邊昇〔相談役〕野間清治

臺灣パルプ工業

臺灣パルプ工業は本年2月10日創立された。大日本製糖，昭和製糖，鐘紡といふ有力筋を背景とするバガスパルプ製造會社だ。即ち資本金1000萬圓，總株數20萬株の中，日糖7萬株，昭和糖7萬株，鐘紡1萬株を占めてゐる。從つて原料も日糖の彰化，鳥日，月眉，昭和の苗栗，沙鹿，等の工場より供給を受けるのである。

昭和糖は三亞製紙時代の經驗もあるし，それに當社の技師長萩原鐵藏氏は臺灣興業の技術を指導した人だけに，バガスパルプの製造技術に就いては充分自信がある工場は最初大屯郡王田莊前に設立する筈であつたが，用水及排水問題に關し地元の苦情が出た爲これを抛棄し，新たに大肚莊前に建設されることになつた。第1期計畫は製紙用パルプ12,000噸，操業は昭和13年末，將來は3萬～5萬噸に擴張する豫定である。

尙昭和製糖では當社の營業成績を見た上，單獨にてバガスパルプ製造に乘り出さんと計畫してゐる。

重役：〔社長〕赤司初太郎〔取締役〕藤山愛一郎，後宮信太郎，金澤多三郎，山淵肇，中村庸，永井清次，萩原識藏〔監査役〕望月軍四郎，坂本素魯哉

新日本砂糖工業

當社は昭和13年4月1日創立された。資本金2,500萬圓，鹽水港製糖の子會社である。鹽水港製糖は近來さかんに積極化して來た。たとへば無水酒精の生産——燃料飢饉をねらつて年産6萬石の無水アルコールの製造がそれである。バガスパルプも亦パルプ飢饉をねらつた鹽水港の多角經營の一だ。

砂糖製造及びバガスパルプ製造には元來莫大な用水を必要とする。その上，パルプの場合には硬度が高くては絶對に駄目である。當社太子宮工場はこの點に於いて急水溪及び尖山埤より豊富なる用水を供給を受ける故心强い。太子宮工場は，新宮，岸內の中央地帶たる太子宮農場(15萬坪)の近くに建設中だが，此の邊りは甘蔗の豊饒な產地であるだけに原料の蒐集には最も都合よい。第1期計畫は製紙用パルプ3萬噸(初年度15000噸，次年度30000噸)である。操業は來年の6月の豫定である。製法は主任技師影山光三氏の指導のもとに亞硫酸法により行ふ。

第2期計畫としては東部臺灣にある鹽水港製糖壽工場附近に進出する。此の東部地方には從來殆ど顧られなかつた銀合歡（ギンネム）といふ濶葉樹種の灌木が繁茂してゐる。成長が早く4年目毎に輪伐することが出來，パルプ原料として適當なものである。當社はこのギンネムより人絹用パルプを生產すべく，壽工場ではバガスとギンネムを併用する積りである。生產高は兩者を合して5萬噸。

第3期は西部臺灣の溪洲に年產1萬噸のパルプ工場を建設する。この期に於いて太子宮工場の生產高を3萬噸から5萬噸に增加する。即ち最終年度には當社のパルプ生產高は合計11萬噸に達する筈だ。

重役：〔社長〕楠哲〔常務〕岡田幸三郎

臺灣製糖

糖業一本に膠着して確固たる地盤を築いて來た臺灣製糖株式會社（資本金6300萬圓）も，最近「現狀維持は退化の道なり」と心境の變化を來たしパルプ事業に觸手を伸ばし出した。かねて九州帝國大學に研究依囑中であつたバガスパルプ製造法がこの程完成したが，其の結果が優秀なのでいよいよ糖，昭和，鹽水港のあとを追ひ，資本金1000萬圓の子會社を設立すべく準備中である。工場は臺南州に建設し，

九州帝國大學より技術擔當者を聘し，年產2萬噸の製紙用パルプを生產する計畫だ一時臺灣興業を買收するらしいとの噂があつたがこれはデマである。當社の單獨資金を以て經營する肚だ。

重役：〔社長〕武智直道〔專務〕益田太郎〔常務〕鳥居信平

尙以上各社の計畫が全部實現されるとすると，臺灣に於けるパルプ生產高は17萬噸を超えるわけである。即ち昨年度全國パルプ生產高の⅓に達する。

稻藁パルプ

豊葦原瑞穗の國たるわが國に於いては，古來稻藁は農家に於いて種々利用されてゐる。しかしその利用狀況は今までは尙原始的利用にとゞまつてゐた。全國の藁生產額は35～40億貫に達してゐるが，その用途は農林省更生經濟部の調査によれば下の如くである。

藁加工品	583,710千貫	16.4%
燃料	348,991	9.8%
家畜用（厩肥）	1,404,783	39.6%
肥料	826,512	23.3%
其他	275,005	7.7%
未利用のもの	101,921	3.2%
合計	3,540,872	100 %

以上の中，燃料，肥料，其他用途不明のものに向けられてゐる割合の約半分は新用途に十分向け得られるものであるから，未利用の分と併せて少くとも全產額の20～25%はパルプ化し得るわけである。即ち全國の產額を40億貫とすれば約8～10億貫であるが，これは極めて內輪に見積つたものである。加之都會に集中される藁加工品（俵，莚，叺俵，繩）の廢物が莫大な數量に達するであらうから，實際に利用され得る藁は遙かに多量であらう。

稻藁は纖維素40%以上を含有してゐるが，厄介なのは節である。莖部と節との區別が困難なため，これを芟除すれば選別に冗費を要し，さりとて其の儘莖部及節部を共に蒸煮すれば製品がわるくなり且つ歩留りも精々20%位に低下する。そこで藁パルプ製造のためには，（1）稻藁の全纖維素を採取するにはどうすればよいか，（2）灰分を出來る丈け除去するにはどうすればよいか，といふ點に各社の研究の主眼がおかれてゐる。

藁パルプの收率は杉本俊三博士によれば製紙用40%，人絹用20%であるから，製

紙用パルプ160萬噸，人絹用パルプ80萬噸の生産が可能な譯である。但し後者の方は技術的に見て尙幾多の難關がある。稻藁の蒐集は大都會附近では比較的容易であるが，地方農村では大量的に蒐集するには稍困難である。小路金十郎氏は地方工場の最大單位は年産1萬噸であると言はれてゐるが，杉本博士は運搬を便利にするため稻藁を壓縮したパルプ中間物を農村に於いて小規模に製造することを唱導せられてゐる。

旭電化工業

旭電化は曹達，油脂，金屬マグネシウム，エチレングリコール，セロフアン等の多方面に亘つて事業面を擴げて居る古河系の化學工業會社（資本金500萬圓，拂込350萬圓）である。藁パルプの本格的製造は昨年から始めて居るが，ウエットの方は數年前より試みて居り，更に藁パルプの研究は10年以前より研究を續けて來て居る。當社の藁パルプ工場は東京市荒川區の尾久工場内に設けられてあるが，年産7000噸，現在注文に追はれて居る形なので年産1萬噸に增産すべく目下工事中である。製法は鹽素處理法によつて居るが，藥品の鹽素が自給出來る上に，工場が東京市内に在るため原料（古俵，古繩）の蒐集が容易である點が强味である。當社は大阪の吹田に年産7000噸の藁パルプ工場を建設する豫定であつたが，吉野商相時代の1府縣1工場主義によりラサパルプの大阪工場に優先權をとられた。しかし全然不許可になつたわけではない。現下のパルプ飢饉より見て或ひは近く復活するかもしれない。更にこの情勢に鑑みて名古屋地方へも進出する意圖を持つて居る。豐富な經驗を持つて居る當社が藁パルプ部門でどこまで積極的に乘り出してゆくか蓋し興味ある問題である。

製品は全部製紙用パルプで，過半は内閣印刷局に送られてゐるが，其他は安宅商會により市販されてゐる。

重役：〔會長〕古河從純〔專務〕磯部愉一郎〔取締役〕浦山助太郎，山口喜三郎，棚橋寅五郎，藤堂良讓（技師長），近藤眞一，浦野三郎，小池一郎（支配人）〔監査役〕南部助之丞，木村利吉，南宮四郎

ラサパルプ工業

ラサパルプの强味は旭電化と同じく藥品類の供給に不安がない（親會社ラサ工業より供給さる）のと，原料が大阪市内の藁加工品の廢品であるため蒐集が容易な點である。製法は大阪工業試驗所片山徹吉技師の長年に亘る特殊鹽素處理法によつて居る。前大阪工試所長莊司市太郎氏が同社の顧問であり，片山氏の外大森台三郎技

師其他優秀なる技師が多數工試より入社してゐるから技術の方では不安はない。

創立は本年5月1日，公稱資本金250萬圓，半額拂込である。工場はラサ工業大阪工場に隣接して居り，來年1月1日から操業すべく目下鋭意工事中である。最初は年産7,200噸であるが，操業開始すれば直ちに1萬噸ぐらいに增産する筈。製品はいまのところ製紙用パルプであるが，やがて人絹パルプをも生産する肚らしい。稻藁の人絹パルプ工業化は餘ほど難問題であるが，當社には大阪工業試驗所といふ技術スタッフが控へてゐるから，人絹パルプには大分自信がある模樣だ。製品の市販は伊藤忠商事が當ることになつてゐる。

重役：〔社長〕小野義夫〔專務〕小島甚太郎〔取締役〕黑川福三郎，横田小人大，米山明一〔監査役〕草川求馬，松葉恭助，石崎石三〔支配人〕多田早苗〔顧問〕莊司市太郎

大日本纖維工業

下村陽吉氏の研究に基き大日本纖維工業株式會社（資本金100萬圓全額拂込濟）が創立せられたのは昨年3月である。岩手縣一關に年産7,200噸設備の工場を設け昨年10月より操業，本年2月11日の紀元節を卜してストローパルプ，ストローフアイバーの2種の製品を發賣してゐるが，藁パルプの市販では旭電化に次で早い方である。パルプは勿論製紙用であるが木材パルプとの混合用として一般の受けは良い。當社が東北地方に藁パルプ工場を持つて來たことは，東北地方農村振興の新しい道の一つとして注目されてゐる。

重役：〔社長〕吉田浩也〔專務〕一ノ瀨貫一〔取締役〕曾根登，下村陽吉（技師長）

東武製紙工業

舊樺太工業の重役下村純二氏の經營する會社である。昭和12年6月創立，資本金50萬圓，拂込は12萬5千圓。本社並に工場は東京市板橋區下赤塚，東京市内の廢俵より製紙用パルプを製造するのである。製法は特許曹達處理法により，收率は35%程度である。現在のところ日産5噸ぐらいであるが將來年産15000噸に擴張する豫定。

重役：〔專務〕下村純二〔取締役〕鵜飼重惇，大川貞作，渡邊研三〔監査役〕梅田藤重〔相談役〕藤田好三郎

名古屋パルプ製造

名古屋パルプ製造株式會社は名古屋市内の藁加工品廢品より製紙用パルプを製造する新設會社である。資本金110萬圓の中保土ケ谷曹達と東京電氣と聯合紙器がそれぞれ5を引き受けてゐる。

東京電氣と聯合紙器は同族會社である。昨年春聯合紙器はその資本金300萬圓を倍額增資したが，此の增資株6萬株は全部東電が引き受けた。よつて聯合紙器は從來東京電氣が經營せる川口のパツキングケース工場を買收した。

こんどの名古屋パルプも大體は東京電氣へ供給する諸ケースに用ふるパルプを製造するのが目的である。從つて製品は優先的に聯合紙器に供給する模樣だ。藥品類は保土ケ谷曹達より供給を受けるが，遠隔の地より運搬することは種々の不便があるので，可及的速かに自給策を講ずべく名古屋工場内に電解苛性工場を建設する豫定である。計畫生產高は年に6000噸。〔重役未定〕

三　島　工　業

三島工業は靜岡縣三島町にあるパルプ並に製材會社で，鐵興社專務佐野隆一氏の個人會社である。佐野氏は，近來時局の波に乘つてはなばなしく進出してゐる鐵興社の獨裁王。もともと鐵興社は合金鐵と化學藥品を主眼としてゐるが，最近酒田工場の建設を機としてますます多角的に乘り出してきた。藁パルプも當初は自家製鹽素を用ひて酒田工場で生產する豫定であつたが，パルプ製造技術の經驗がない爲これを傍系の三島工業に讓つた譯である。三島工業ではこの爲現在資本金50萬圓を100萬圓に倍額增資すべく資金許可を申請した。豫定生產高，操業開始時期等はなほ不明。

麥　藁　パ　ル　プ

倉　敷　絹　織

倉絹では人絹用パルプ飢饉が叫ばれる以前よりパルプ自給について研究してゐるが，最近の生產設備激增(現在日產能力人絹85瓩，ス・フ28瓩)に拍車をかけられいよいよ企業化に乘り出した。本年4月1日資金調整局から認可が下りたので目下岡山工場内にパルプ工場の建設工事中である。原料は中國地方產の麥藁，これを用ひて年に約7000噸の人絹用パルプを生產する計畫だ。勿論人絹用と言つても單獨では糸がひけない。木材パルプと混用するのである（約5%)。麥藁から人絹用パルプを製造することは技術的に見て困難な問題であるが(しかし稻藁よりは良品が得られる)この點に於いて當社は餘程の自信を持つてゐるらしい。もつとも麥藁は蒐集の點に於いて多少障碍があるので稻藁をも原料として用ふる。これは主として大阪市内の廢俵を船で運んで來るのだ。岡山工場が操業するに至れば（大體明年春より操業開始）直ちに新居濱工場内にも日產20噸のパルプ工場を建設する豫定である。

重役：〔社長〕大原孫三郎〔副社長〕神社柳吉〔常務〕高橋雄吉〔取締役〕原澄治，福島部三，吉井伸助，柿原得一，三村起一，〔監查役〕大原五一，大屋敦中村純一郎，大森實

岡　山　製　紙

岡山製紙(資本金100萬圓，拂込62萬5千圓)も倉絹と同じく小麥藁を原料とするパルプ製造の計畫を持つてゐる。當社長中村純一郎氏は倉絹の重役である故，技術的の指導は一切倉絹に仰ぎ，日產10噸のパルプ工場を現在建設中である。最初は自家用の製紙パルプを生產するが，いづれ行く行くは人絹用パルプに移行するものと見られる。原料は岡山地方の農家より集める麥藁と種々の麥稈加工品の廢品を利用するが，倉絹と同じく蒐集の點が問題である。當社の操業開始は倉絹より少しおくれるらしい。

重役：〔社長〕中村純一郎〔常務〕他上强三〔取締役〕横山雄一，水田正雄，吉崎仁三郎〔監查役〕岡崎眞一郎，山崎保

東　邦　化　學　工　業

昭和12年12月創立，資本金16萬圓。工場は栃木縣下都賀郡問々田，未だ製品は市場に出てゐない。麥稈より製紙用パルプ日產10噸の生產豫定である。營業所は東京市丸の内三菱東七號館に置いてある。

重役：〔社長〕坂梨哲

以上列擧した藁パルプ工場のほか，靜岡縣沼津市の新興藁パルプ研究所（小路金十郎氏經營，資本金5萬圓)，其他小規模の稻藁・麥藁パルプ工場は時流に乘つて諸所で旗出せんとしてゐる。

籾　殼　パ　ル　プ

籾殼の生產高は昨年度に於いて6億5千8百萬貫に達してゐる。これらは從來殆ど廢物同樣に扱はれてゐたが，これがパルプ化し得るとなれば，原價が廉いのと綿密が稻藁等よりも容易な點に大變な强味があるわけである。

富國人絹パルプ

いまの所籾殼パルプを企業化してゐるのは富國人絹パルプ（資本金1000萬圓，拂込250萬圓)のみである。當社の技術は舊呉羽紡績人絹部の故萩原清彦氏の研究を基礎としたものであるが，どの程度まで工業的に成功し得るのか，詳しいことを秘し

てゐるので，その邊のことは判然としない。しかし會社側では充分自信あるものゝ如く，現在愛知縣の祖父江工場を建設中である。明春操業開始，日產6000噸の豫定。將來は當社全體の生產高を5萬噸に迄擴張する模樣だが，原料を大量的に蒐集することは困難の故，工場分散主義をとる方針で，第2工場は沼津地方，第3工場は北九州地方に設ける豫定と聞く。

資本系統は伊藤忠系である。即ち全株數の中，伊藤忠商事が7萬株，呉羽紡績が5萬株を占めてゐる。

重役：〔社長〕伊藤竹之助〔專務〕淵田太郎〔取締役〕豐田利三郎，高橋保，井上富三〔監査役〕平生釟三郎，岩本吉左衛門，伊藤忠兵衛

葦パルプ

本年4月中旬大阪で開かれた全產聯の席上で津田鐘紡社長が藤原王子社長と贈當てをした話は餘りにも有名だ。問題は葦パルプのことである。これよりさき藤原氏は，鐘紡が葦から人絹パルプを造ると聞いて，人を介し「それは結局無駄骨だから止めた方がいゝでせう」と忠告したものである。これがハリキリボーイの津田氏の胸クソを惡くした。そして遂に全產聯の會合で「一體財界の有力者が新規事業に冷水を注ぐ樣なやり方は，健全な產業の發達を押し殺す樣なものであるから，今後は左樣な行動を慎んでもらひたい」と言つて同席の藤原氏をグッと睨んだそうである。

これに對して藤原氏がどう應へたか知らないけれど，藤原氏も製紙用葦パルプについては何等異議をさしはさんでゐない。昨年12月の阪大纖維科學研究所設立記念講演會では次の樣に言つてゐる——「パピラスといふのは葦の樣なものでありますが，これが紀元前8000年から紀元前1000年頃に用ひられてゐました，其の後は他の優良な製紙原料に押されて全然顧られなかつたのでありますが，今日になつて又その葦が紙になるといふ樣なことになり，世の中は循環して居ります」——しかし葦が糸になるといふことは言つてゐない。葦は何しろ灰分が多いので人絹用としては些か困難な條件を持つてゐるのはたしかだ。

原料の獲得については從來悲觀的に見られてゐたが，この點は些かの不安もないらしい。東洋製紙の白河沿岸にしても，康德の遼河沿岸にしても，年々上流から沃土が流れてくるため，地力が衰へ採集量が減少するといふことはない樣だ。

康德葦パルプ

康德葦パルプ株式會社（資本金500萬圓，拂込250萬圓）の生みの親は武藤理化學

研究所長中本實博士である。中本博士の血のにじむ樣な努力によつて，とにかく康德葦パルプはレニア（米國）やボレガード（諸威）等の外國優秀パルプにも劣らぬ人絹用パルプを生產し得るに至つた。現在操業してゐるのは營口工場の7000噸（年產）だけであるが，近くこれを倍增產すると共に新義州工場を建設中である。新義州工場は本年9月頃操業する豫定だが鴨綠江下流沿岸の葦を材料としてやはり人絹用パルプを年產7000噸生產する。兩工場の製品は共に鐘紡平壤工場に送られる筈。

なほ鐘紡では當社及び同系の東滿洲人絹パルプ（資本金3000萬圓，開山屯に在り）を中心として，これらに藥品を供給する康德鍊業（資本金200萬圓，海城に在り），其の他傍系の康德染色（50萬圓，奉天），王府種牧場，東亞毛皮革等を糾合して資本金6000萬圓の「鐘紡實業株式會社」を設立，以て鐘紡の大陸に於ける諸事業を整備統一することに決定した。鐘紡實業の誕生によつて葦パルプは更に前進するであらう。〔代表取締〕倉地四郎

東洋製紙工業

旭シルク，と野村系の抄紙及びパルプ製造會社である。資本金1000萬圓のうち旭シルクが65000株，野村合名が65000株占めてゐる。工場は天津より2哩下流白河左岸の天津縣灰堆鎭に在る。製法は重亞硫酸マグネシア法によつてゐるが，これは在來の方法より遙かにコストが安い。技術の指導には巴川製紙の桑畑齊次氏があたつてゐる（沙紙の方は同じく巴川の土井淑行氏）。當初葦パルプ8000噸のほかに福州材を用ひ年產1萬噸のクラフトパルプを製造する豫定であつたが事變の爲原木入手難に陷り，その代用として滿洲材（東部鮮・滿國境邊のシロマツ材）を使用する肚である。操業は本年9月の豫定であるが，製品はウエットの儘抄紙部に送りパルプより抄紙までの一貫作業を行ひ市販しない。當社は最近濟南にある華人經營の抄紙廠を買收したが，天津工場の餘剩パルプは濟南の方に送る筈である。

重役：〔專務〕小林太〔常務〕竹內象藏，長松宗一〔取締役〕小田萬藏，山內貢，黑瀨弘，西橋外男，熊田克郎〔監査役〕松浦卓，佐藤梁一，清水太郎

大豆稈パルプ

滿洲の大豆稈生產高は年額約600萬噸に達する。其の中搬出可能のものは200萬噸これをパルプにすると歩率25%と見て約50萬噸の生產が可能なわけである。原料蒐集其他に些少の障碍が伴つても企劃院案の昭和17年度55000噸生產はさして難事ではないと見られる。

大豆の性質は東京工試村椙兵義氏の報告によれば下記の如くである。

	水分	灰分	脂肪	リグニン	ペントザン	繊維素	αセルローズ
莖稈	11.0%	2.87%	4.73%	20.18%	22.93%	51.55%	34.00%
莢	12.5%	4.91%	4.43%	16.33%	21.85%	43.68%	30.80%

莖稈部の繊維長は0.2～1.0平均0.6m.m. 即ち莢本科植物の中ではまれに見る短かさである。パルプ收率は實驗室的には 30～33% であるが，工業的には繊維が短いため特別の工夫と改善を施さゞる限り20～25%の收率を擧げることは難しい。

滿洲豆稈パルプ

滿鐵中央試驗所では十數年前より高粱稈，大豆稈の利用法について研究してゐたが最近完成した。これよりさき酒井繊維工業が特許をとつたアルカリ處理法は，大阪帝大工學部で更に研究の結果企業化し得る見透しがついた。そこで滿鐵中試と阪大工學部の研究を統合した技術の上に滿洲豆稈パルプ（資本金1000萬圓，半額拂込）は生れたわけである。當社は日滿共同出資で，日本側は酒井繊維工業，野村合名が主となつて居り，滿洲側は滿洲國政府，滿鐵，滿洲興銀が主となつてゐる。工場は現在開原に人絹パルプ年産15000噸設備の工場を建設中だが，將來は當工場を5萬噸位まで擴張すると共に漸次各所に工場を設立する豫定。最初は開原工場のみで20萬噸まで擴張する計畫であつたが，原料の蒐集の點で不便があるので分散主義に轉向したわけだ。開原工場は本年10月より操業に入る。

重役：〔社長〕酒井伊四郎，〔常務〕戸倉誠司〔取締役〕市橋勝二，菊地文吾，森下廣三郎，竹下勘右衛門，渡長次郎，松島鹿〔監査役〕酒井正二，宇野賢一郎，熊田克郎，星野龍男，平田瑞穗

桑條パルプ・萱パルプ

人絹會社の原料確保政策は藥品自給より更に進んで，最近のパルプ飢饉に面してパルプ自給策にまで進出する傾向があり，曩に紹介した倉絹，鐘紡のほかパルプ製造を計畫するもの2,3にとゞまらなかつたが，壽繊維工業，昭和人絹の桑條パルプの如く立ち消えになつたり，資金調整法で押へられたりしたものがあり，現在企業化の目ぼしがついてゐるものは數社にとゞまる。

東洋紡——桑枝桿の全國生産額は約200萬瓲，その中80萬瓲はパルプ化される可能性を持つてゐる。しかし蒐集の不便と桑條が農家の燃料として相當重要な役割を持つてゐる點より，これが工業化に稍困難が伴ふ。東洋紡の犬山工場は昭和13年8

月15日より工事に取りかゝつてゐるが，桑枝桿の購入については農村側と充分連絡がとれてゐるので原料蒐集の點では心配はない。製造開始は來年早々，第1期年産人絹パルプ1萬瓲。尙東洋紡は鐘紡の萱パルプに對抗して松花江沿岸の猫柳をパルプ化せんと研究中である。

東京人絹——東京人絹は當初資本金1000萬圓程度の別會社を造りパルプ製造とス・フ增産を圖らんとしたが，商工省の容るゝところとならず，依つて當社自體で人絹用の桑條パルプ15000噸を生産すべく資金許可を申請したが，これも當局の許可するところとならず，新たに年産3600噸の資金許可を申請したが，これは許可せられる模樣である。しかし日産10噸位の生産で事業になるかどうか。工場は當社吉原工場附近に設けるが，原料の供給に關して養蠶組合その他との折衝はかどらず，從つて操業開始時期は未定。

日本人造羊毛——當社の萱パルプはすでに試驗的には成功してゐる。原料は阿蘇山麓に豐富に叢生してゐる萱である。たゞ企業化の可能性が問題となつてゐた。しかし最近に於いていよいよ成算がついたらしく具體的に乘り出してきた樣だ。

以上のほか**昭和人絹**は新たに內地材を用ひて人絹パルプ生産に進出すべく大分縣下に工場建設の計畫を持つてゐる。**東邦人繊**は海藻よりパルプ製造の研究中であり，**大日本紡**は落棉パルプの研究中である。

マオランパルプ・其他

マオランは百合科に屬する硬質繊維植物である。繊維素は86%も含有してゐるから人絹用パルプとしては樅などよりは遙かに優秀なパルプ原料といへる。

	α繊維素	ヘミ及酸化繊維素	銅價數
マオラン	95.45%	4.55%	0.35%
樅	90.10%	9.90%	1.7 %

マオランよりパルプ製造については高千穗製紙，日本フラックスパルプ以外に日本毛織，日產護謨等も研究してゐる。

高千穗製紙——大川系の特殊繊維株式會社は九州地方でマオランの栽培をやつてゐる。高千穗製紙（やはり大川系）は此の特殊繊維のマオランから人絹用パルプを製造せんとして創立されたものであるが，現下のパルプ情勢に鑑み，マオランでは早急に大量的生産が難しいので，經驗のある木材パルプに轉向した。しかしいづれ大川系はマオランパルプに手をつけるものと思はれる。

日本フラックスパルプ——夙迄製紙界の方へは少しも頭を突つ込まなかつた理研系が新たに設立した會社である。工場は千葉・大分・靜岡等に分散して建て，第1期5000噸，第2期12000噸，のマオランパルプ生產を計畫してゐる。

燕麥稈パルプ——樺太の大泊—豊原間の燕麥稈4000萬貫の中600萬貫を處理して約1萬噸のパルプを得ようとして，目下設立計畫中がある。製法は佐藤晴一氏の硝酸法によつてゐるが，その試製品を早大の小栗捨藏博士，帝國發明研究所が試驗した結果優秀なる結果を示した。人絹用パルプに適してゐるとのことである。

吉原製油——リンターより人絹パルプを製造する計畫あり。

明治化工——海草よりパルプ製造の計畫中。

帝國纖維——海藻より人絹用・製紙用パルプ，綿火藥原料，糊，藥品を得るのが目的である。現在千葉縣に津田沼工場建設中，近く操業開始の豫定。但し最初は日產5噸。將來日產500噸～800噸に增產する豫定である。(昭和13,8,9記)

本邦パルプ會社紹介 (其の二)

木材パルプ

王子製紙

昭和12年度に於ける本邦製紙生產高2,129,025,562封度のうち78.54%(1,672,075,972封度)は王子の占むるところであり，同じくパルプ生產高810,594噸の91%(737,300噸)は王子が占めてゐる。すなはち我國の製紙工業・パルプ工業は王子を除外しては全然語れないわけである。そもそも王子が創立されたのは明治5年11月，當時の資本金は15萬圓，東京府下王子村に今から見ればさゝやかな抄紙工場を有するに過ぎなかつたのが，現在では資本金3億圓(拂込224,994,000圓)，全國各地に33の工場を有するほか數多の子會社を擁して世界に君臨してゐるのである。王子製紙70年の歷史はまことに日本資本主義發達史の縮圖とも言ひ得る。けれど王子の歩いた道は決して坦々たるアスフアルトの鋪道ではなかつた。日本資本主義が當面した幾多の嵐に王子も又見舞はれたわけである。しかし三井の巨大なる資本は此の嵐の中に王子をして益々發展せしめ，殊に大正末期より三井がいよいよコンツエルンとしての偉容を示すに至ると共に，王子も又大正10年には朝鮮製紙を，大正13年には北海工業を，更に昭和8年4月には遂に富士製紙・樺太工業の二社を合併し，茲に完全に日本製紙產業をリードするに至つた。

パルプ製造も又王子を以て嚆矢とする。すなはち明治22年天龍川沿岸の森林を利用してサルフアイト・パルプ工場を設けたのが本邦パルプ工場の最初である。其の後富士製紙・四日市製紙・中央製紙・東海紙料等も富士山麓・南アルプス・木曾川沿岸の豊富な森林を目標として續々パルプ製造に乘り出したが，過伐の結果明治末年には早くも原木の不足を告げ富士製紙は明治41年，王子は明治43年にそれぞれ北海道にパルプ工場を建設，次いで大正に入ると共に樺太へも進出するに至つた。かくてパルプ工業の順調なる發展に伴ひ製紙用パルプはほゞ自給さるゝに至つたが人絹用パルプの方は昭和7年までこれを悉く輸入に仰いでゐたのである。同年秋に至り舊樺工泊居工場が人絹パルプの製造を開始するに至り，超えて昭和9年王子の子會社日本人絹パルプが操業さるゝに至つたとは言へ，昭和12年に於ける本邦人絹パルプ生產高は合計57,294噸，自給率はわづか16.6%に過ぎざる狀態であつた。しかし人絹パルプ工業の整備と擴張は刻下の國策的見地から急速にその實現が期望せ

られ，かくて此の部門に於いても自給自足の域に達するは近き將來の事と思はれるが，茲でも王子はその多年に亘る經驗と優秀なる技術と强力なる資本を以て幾多の新設會社を斥け巨大なる地歩を占めて行くだらうし，又占めて行きつゝある狀態は疑ふべくもない事實である。

王子製紙のパルプ工場は全部で22，此のうち人絹パルプ製造工場は現在のこころ樺太野田・泊居の2工場のみである。

王子製紙パルプ工場

（工場名）	（所在地）	（製品パルプ種類）
大泊工場	樺太大泊郡大泊町	サルフアイト
豐原工場	樺太豐原郡豐原町	サルフアイト
落合工場	樺太榮濱郡落合町	サルフアイト，クラフト
知取工場	樺太元泊郡知取町	サルフアイト，グラウンド
眞岡工場	樺太眞岡郡眞岡町	サルフアイト
野田工場	樺太野田郡野田町	サルフアイト
泊居工場	樺太泊居郡泊居町	サルフアイト
惠須取工場	樺太名好郡惠須取町	サルフアイト，グラウンド
苫小牧工場	北海道膽振國勇拂郡苫小牧町	サルフアイト，グラウンド
江別工場	北海道札幌郡江別町	サルフアイト，グラウンド
釧路工場	北海道釧路郡鳥取村	サルフアイト，グラウンド
十條工場	東京市王子區下十條町	グラウンド
千住工場	東京市千住區南千住町7丁目	グラウンド
富士第一工場	靜岡縣富士郡鷹岡町字入山瀨	グラウンド
富士第二工場	靜岡縣富士郡富士根村小泉	グラウンド
富士第三工場	靜岡縣富士郡富士町平垣	サルフアイト，グラウンド
芝川工場	靜岡縣富士郡芝富村	グラウンド
名古屋工場	名古屋市中區船見町	マグネシア
中津工場	岐阜縣惠那郡中津町	サルフアイト，グラウンド
伏木工場	富山縣射水郡伏木町	グラウンド
神崎工場	尼ケ崎市常光寺	グラウンド
八代工場	熊本縣八代郡太田郷町	サルフアイト，グラウンド
坂本工場	熊本縣八代郡上松求麻村	サルフアイト，グラウンド

朝鮮工場　朝鮮平安北道新義州府麻田洞　サルフアイト

以上24工場のパルプ製造設備總計ダイゼスター60基，グラインダー126臺に達し，製紙用パルプ生產高は

	（昭和12年）	（13年見込）
サルフアイト	379,047噸	379,200噸
グラウンド	328,722〃	346,100〃
クラフト	40,884〃	41,000〃
マグネシア	4,407〃	4,100〃
（計）	753,060噸	770,400噸

人絹用パルプの方は昭和12年度は王子自身としては生產無し，13年度見込は25,000噸である。しかし人絹パルプ飢饉に對應しそのその自給自足を强行すべく今や官民擧げてこれが實現に邁進してゐる際であり，王子も又此の國策の線に沿ひ子會社の增產を圖ると共に野田工場の人絹パルプ製造への轉換，泊居工場の擴張を目下著々準備しつゝある。すなはち14年度以降に於いては野田工場は人絹パルプ20,000噸，泊居工場は40,000噸の生產高を擧げる筈である。而してこれら人絹パルプの生產は今後王子に對し，洋紙需要の統制に伴ふ洋紙販賣收入減を補つて行くだらう。

藤原社長は昨年末の阪大纖研講演會に於いて『パルプを造つてパルプで賣つて居れば一番利益であります，私の會社でもパルプで賣つて居れば一番利益を得るのでありますけれども，紙にして廉く賣りますからそれだけの利益は得られぬ事になります』と製紙の方はまるで儘からぬ樣なことを言つてゐるが，なるほど原價高と販賣減に伴ひ一時ほど利益を生まなくなつてゐるのは確かだ。昨年と今年を比較しても，12年上期の洋紙コスト封度當り8錢8厘に對し13年上期は10錢に昂騰し，販賣高は12年上期873,975,871封度から13年上期840,576,310封度に減少してゐる。而して今迄は王子の獨占力により，これらのロスを市價引上げによつてカバーして來たのであるが，今後供給制限と共に紙價統制の强化は必至と見分られるから，王子はその收益減退をこれからは如何にして防衛して行くか。いづれにしても困難な問題であるが，茲でわれわれは藤原社長の言葉——パルプを造つてパルプで賣つて居れば一番利益がある——を想ひ出す。王子自身がパルプを增產すると共に人絹パルプ製造の子會社がいづれも目ざましい成育ぶりを示して居り除々に收獲期に入つて來てゐる事にわれわれは注目すべきである。コスト高・販賣減・紙價統制等のため目先樂觀を許さゞるものありとは言へ，人絹パルプによる王子自身及び子會社からの收益は依然王子をして其の王座を確保せしめて行くだらう。

但し上記子會社の生產設備擴張のため王子は下記の如き資金を必要とする。

1. 北鮮製紙化學	增產設備費	500－1000萬圓
2. 日滿パルプ	增設費	500萬圓
3. 山陽パルプ	新資金	500萬圓
4. 東北振興パルプ	新資金	600萬圓

以上のほか苫小枚製紙工場增設費，泊居工場人絹パルプ4萬噸擴張費等に約5,6百萬圓の資金を要する、すなはち合計3千萬圓程の資金を王子を調達しなければならぬ。これは恐らく第3回拂込徵收を以て充當するものと推察される。

重役：〔社長〕藤原銀次郎，〔副社長〕高島菊次郎，〔專務〕田中治郎，井上憲一，足立正，松本弘造，〔取締〕大橋新太郎，原邦造，田中榮八郎，井上周，朝吹常吉，大川鐵雄，一柳貞吉，眞島幸次郎，〔監査〕井坂孝，益田信世，小池厚之助，小西喜兵衛，山口竹治郎

日本人絹パルプ

日本に於ける最初の人絹パルプ製造工場は王子（舊樺工）の泊居工場であるが，これに次いで人絹パルプに乘り出したのは日本人絹パルプである。當社が生れたのは昭和7年4月，操業開始は9年6月と言へばまさにパルプ飢饉が喧しくなりかけた疾風怒濤時代（シコトルノ・ウシト・ドランゲ）である。言ふまでもなく當社は王子直系，資本金2000萬圓，金額拂込濟である。最近の生產高を示せば

	（昭和11年）	（昭和12年）	（13年見込）
人絹パルプ	33,200噸	36,434噸	38,100噸
製紙パルプ（クラフト）	11,389〃	22,597〃	22,600〃

增產設備が完成したので本年以降は人絹パルプ生產高は38000噸である。但し茲で考ふべきものに原木問題がある。

樺太に於ける昭和12年度のパルプ原木使用量は製紙用・人絹用併せて6,908,760石に達してゐるが，從來の濫伐の結果今日では最早や增伐の餘地がないことは周知の事實である。しかし目前のパルプ飢饉に迫られて樺太廳は增伐の許可を與へてゐるが，この儘で行けば遠からず樺太は不毛の荒野と化してしまふ惧れは充分ある。而かも殖林政策は經費・勞働力・自然的條件に制約されて早急に充分行ひ難い事情にあり，こゝに於いて製紙用原木を人絹用に振り向けると共にいづれ當局は伐採の制限を强化するはずである。此の場合日本人絹としては人絹パルプ生產に關する限り

目先樂觀すべきであるとは言へ，森林の枯渴に脅かされるのは明らかである。此の不安を除くためには樺太に於ける造林計畫が當局との協同のもとに積極的に遂行されることが要請される。王子造林株式會社は此の目的のために，そして王子系全國パルプ工場の原木供給難を除くために生れたが，その使命はたゞ王子のためのみならず國策的に見て蓋し大なるものありと言はなければならぬ。

日本人絹パルプ重役：〔社長〕高島菊次郎，〔專務〕光澤義男，溝口新平，〔取締〕田中治郎，井上憲一，鈴木實，山內幾馬，木下又三郎，〔監査〕加藤藤太郎，安場保健

北鮮製紙化學工業

パルプ原木の不足は王子をして北部朝鮮の豐富なる樹林に目をつけしめた。すなはち落葉松・唐松・白松の豐富な森林を有する吉州地方に王子の技術を移出し製紙パルプの製造を圖らんとして昭和10年4月設立したのが北鮮製紙化學工業株式會社である。最初は製紙用パルプが目的であつたが，當時の客觀的情勢により人絹パルプに轉向した。しかし此の轉換は容易く出來たのではなかつた。なにしろ落葉松から人絹パルプを作ることは世界最初であり，王子の技術陣は並々ならぬ苦心をした譯である。昭和11年11月から操業開始してゐるが同年度16,058噸，12年度325,070噸の人絹パルプを生產，今年度見込は352,000噸といふ樣に極めて順調に發展してゐる而かも當社は更に2萬噸增產の計畫を有し，その第1期として年產5,000噸の擴張設備を先づすることになつた。此の5,000噸の分の原木は茂山事業區の燒損木，すなはち山火事に罹災した落葉松を用ふることになつてゐるが，使用し得る材積が約200萬石あると言ふから原木手當の方は何等不安はないわけだ。

北鮮製紙は更にパルプ以外の事業分野への進出計畫を持つてゐる。即ち咸鏡北道白岩附近のマグネサイト鑛を採掘せんとしてゐるのである。但し具體的な計畫內容は未だわからない。埋藏量約10000萬瓲と言はれてゐるが，鑛質その他は目下調査中である。

從つて此のマグネサイトの方は具體的に取りかゝるのは少し後になるわけだが，パルプ增產の方ではさしづめ資金が要る。第1期5000噸の資金は130萬圓見當であるから自己資金で賄ひ得る。しかし第1期が完成すれば續いて第2期擴張に乘り出す豫定であるから，さうなれば500萬圓の資金はどうしても必要となる。當社の第3回拂込徵集が巷間に傳へられる理由はこゝにある。

重役：〔社長〕藤原銀次郎，〔副社長〕足立正，〔專務〕藤原喜藏，橫井半三郎，〔取

締〕大橋新太郎，高島菊次郎，田中治郎，井上憲一，朴興植，〔監査〕松本豆造，韓相龍，淺野太三郎，朴榮喆，田邊武次，下津誠愛，〔相談役〕多田榮吉

山陽パルプ

山陽パルプが近頃投げかけてゐる問題は電解曹達の自給計畫である。經濟情勢が戰時化すると共に晒粉・鹽素の民需は著しく制限を受ける傾向を帶びて來た。此の狀態を觀た王子は曹達の自給計畫を樹て先づ山陽をしてその足踏みをさせんとするのである。しかしこれも觀方によれば前掲の北鮮製紙のマグネサイト採掘と共に王子の多角經營化の１つの徵候とも見られる。傳へられるところに依れば麻里布工場に日產50瓲の電解曹達工場を設け，曹達は自家用に供する他帝人岩國工場へも送り發生鹽素はこれを自家用に當てんとするのである。しかしこれに對しては業者の反對もあり，若し王子が全面的自給をするとなれば，市場に與へる影響は大きいだけに王子としても愼重に構へてゐる。

山陽パルプは昨年４月資本金2000萬圓（拂込500萬圓）を以て創立された。工場は山口縣麻里布新港埋立地に日下三輪次武氏が建設部長となり工事中である。最初人絹パルプ年產２萬噸の豫定であつたが，現下のパルプ情勢に鑑み４萬噸生產に變更した。

原木は主として錦川上流地方の赤松に需める。赤松の人絹パルプも從來技術的に難しかつたが，日本人絹パルプ・北鮮製紙・日滿パルプ等で得た豐富な經驗を持つ王子のことであるから此の點については毛頭懸念がないだらう。操業開始は來年３月，操業する段になれば新資金500萬圓が要るが，これは第２回拂込徵收を以て充當するはずである。

重役：〔社長〕高島菊次郎，〔專務〕井上憲一，田中治郎，〔常務〕溝口新平，〔取締〕濱田東稻，富田次郎右衛門，小林準一郎，早房長德，青山與一，渡部道太郎〔監査〕足立正，松本豆造，石上林二郎

東北振興パルプ

王子のパルプ網は全國あまねしと言つても過言ではないが，從來東北地方へは及んでゐなかつた。しかし東北地方は相當豐富な林源を有し，且つ時局下東北地方農山村の振興が叫ばれてゐる折柄，茲に王子は東北興業と提携して本年１月設立したのが即ち東北振興パルプである。資本金は5000萬圓，東北興業と王子が折半で引受け，パルプ製造の技術的方面は王子が擔當し，原木供給並に造林方面は森林伐採權

を有する東北興業が擔當することになつてゐる。

工場は表日本と裏日本に１つづゝ，すなはち宮城縣石卷市と秋田縣土崎町に設置するが，後者の方はすでに建設にとりかゝつてゐる。生產高は大體人絹パルプ年產，35,000噸，製紙用パルプ15,000噸，合計５萬噸の豫定である。これに要する原木は80萬石，このうち60%は濶葉樹（主としてブナ），40%は針葉樹（主として赤松）を用ふる。山毛欅（ブナ）パルプの製造といふ點に蓋し特に大きな國策的關心が持たれる。操業開始は15年春の豫定であるが，石卷工場の方も近く着工するはずであるから，これが資金として約500萬圓を要する。すなはち當社も又山陽パルプと同じく第２回拂込徵收が豫想されるのである。

重役：〔會長〕藤原銀次郎，〔社長〕高島菊次郎，〔副社長〕金森太郎，田中治郎，〔常〕石上林二郎，山中鍊治，光澤義男

北越製紙

明治40年５月といへば日露戰爭直後の慌しい時期であるが，當時越後長岡の紳商故田村文四郎氏と故覺張治平氏が同地方に豐富な稻藁を利用して板紙製造に乘り出したのが即ち北越製紙株式會社の濫觴である。爾來30有餘年，北越製紙は其の間幾多の波瀾曲折を經て，最初の資本金75萬圓が現在では1,315萬圓に膨張し，その製品も板紙のほか各種洋紙・アート紙・建築用紙・パルプ・ファイバー等に及んでゐる

當社のパルプ工場は新潟市沼垂町に在り，其の製紙用パルプ生產高は次の如し。

	（11年）	（12年）	（13年見込）
サルファイト	11,614噸	14,625噸	18,750噸
グラウンド	14,163〃	15,650〃	18,928〃

かねて增產設備を急いでゐたが此の９月完成，10月より新機械が動く。舊設備と併せて亞硫酸パルプ10噸釜３基，碎木パルプ機（ポケット式）600馬力６臺，カタピラ碎木機1300馬力３臺の設備を有する事になり，製紙用パルプ生產能力は亞硫酸パルプ22,500噸，碎木パルプ２萬噸になる。增產設備が完成したので143萬圓の拂込徵收が行はれた。

當社は７月１日新潟板紙（資本金155萬圓，拂込79萬４千圓）を合併した。從來原料（稻藁）蒐集の上で北越と新潟は競爭してゐたが，合併により稻藁買入は割安になる譯である。又一方市川製紙工場も機械を增設（10月より運轉）したが，これにより販賣高は增加するだらうから，新聞用紙・印刷用紙の原價高を見越しても販賣收入は結局增えるものと思はれる。更に子會社北越パルプの素晴らしい躍進がある。これら

の事由により當社は拂込徵收しても利益勘定は減少しない。樂觀して可なりである。雄伏30年にして漸く1300百萬圓の會社と言へば膨張率が低い樣であるが，北越製紙の飛躍はまさにこれからと言ふべきであらう。

重役：〔專務〕田村文吉，〔常務〕覺張義平，田村文之助，〔取締〕大橋武雄，小川清一郎，中村恒，小林宗作，〔監査〕山本留次，山口誠太郎，山口健造，〔相談役〕大橋新太郎，山口政治

北　越　パ　ル　プ

北越製紙を母體として昨年5月設立された北越パルプは資本金600萬圓，拂込450萬圓，工場は新潟市外石山村に在る。本年5月1日開業式を擧げて操業に入つた。本年中の生產高は5月以降人絹パルプ月產1000噸，8月以降1300噸である。來年よりは年產2萬噸のフル運轉をする。

當社の原木はカナダ材を用ひてゐる。今春カナダ木材會社と契約を結びヴアンクーヴアー島地方の資材を年に20萬石宛，向ふ10ケ年間供給を受ける筈である。それ故當分は原木手當に心配はない譯であるが，原木コストは日曹人絹パルプに較べて幾分高い樣である。しかし製品は人絹パルプ飢饉の折柄であり，製品も優秀なのでこの方は全然不安はない。今後に於ける當社の活躍が期待される。

重役：〔專務〕田村文吉，〔常務〕中村恒，小林宗作，〔取締〕覺張義平，田村文之助山口誠太郎，白勢量作，山口政治，大橋武雄，小川清一郎，〔監査〕山本留次，鷲尾德之助，山口健造，田村貫一，星野量平，〔相談役〕大橋新太郎

日　曹　人　絹　パ　ル　プ

資本金合計2億5千4百萬圓（拂込9千3百萬圓）の日曹コンツエルンの一大支柱を爲す日曹人絹パルプは昨年3月資本金1800萬圓を以て創立された。同年8月日本人絹（資本金1000萬圓）及び綾羽紡（資本金200萬圓）を合併して資本金3000萬圓（拂込750萬圓）となり，パルプ工場及びステープル・フアイバー工場を經營してゐる。

日曹人絹の特長は原料から製品迄の一貫作業の點にある。即ち富山工場で人絹パルプを作り，これを八代工場に送つてス・フに仕上げる。パルプ原木はカナダ材を主として用ふる。當社はかねてヴアンクーヴアー島のデヴィス山林を買收してゐたが，このデヴィス山林の材積は780萬石と稱せられ，年々20萬石宛船入の豫定である。去る7月19日第1船が入つて來たが，續いて第2船，第3船が到着の筈である。しかし人絹パルプ年產2萬噸の生產とすれば原木は20萬石では不足する。此の不足分

は內地材（主として樺太材）で賄はれる。

富山工場は本年6月より試運轉，本格的に操業するのは9月からである。製品はセルローズ90%以上のものが出來るそうである。來年からはフル運轉して2萬噸生產するが，八代工場へ送る自家用の分が5000噸，殘り15000噸のうち若干は日曹系の大日本セロフアンへ渡すがその他は市販する。

重役：〔社長〕中野友禮，〔常務〕金井滋直，〔取締〕武鶴次郎，遠山元一，伊藤忠兵衛，山田昌作，岸本吉左衛門，古莊健次郎，石橋正二郎，小林中，金岡又左衛門，馬場正治，〔監査〕辰己茂乙，竹中治，中山悅治，小長谷新太郎，中田勇吉，〔相談役〕增田義一，鈴木寅彥

日　本　パ　ル　プ　工　業

日本ヴルツ即ち現在の壽纖維工業は數年前より桑條パルプ製造の計畫を持つてゐたが，種々の事情により實現を見るに至らなかつた。そこで壽纖維工業のパルプ自給を目的とする日本パルプ工業（資本金2000萬圓，拂込500萬圓）が昨年6月生れたわけである。尤も當社の主眼とする飫肥杉パルプの研究は兒玉氏が10年前より續けてゐたといふから，ヴルツの桑條パルプが成功すると否とに關らず，日本パルプは生れるべき必然性を持つてゐたとも言へる。

飫肥杉（おびすぎ）といふは日向・薩摩あたりに豐富に產し從來主として和船材として用ひられてゐたものである。殊に當社工場のある宮崎縣南那珂郡一帶には此の飫肥杉が密生して居り南那珂郡だけで材積にして約170萬石あると言はれてゐる。此の杉材は樹脂と色素が多いため，これ迄人絹パルプ原料として餘り省られなかつた。殊に色素がどうしても脫けないため人絹パルプには適しないとされてゐたが，現常務兒玉清助氏が多年苦心の結果漸くこの點に成功し日本パルプの設立となつた譯である。原木が在來のパルプ原木に比して廉い上，工場は地元にあるため運搬費がかゝらぬのでコストガうんと廉くつく。この點が日本パルプの强味である。會社側では「封度當り10錢以內で行ける」と言つてゐる。

本年8月操業する筈であつたがアメリカからの機械輸入が遲れため9月試運轉10月より本格的操業に入る。但し10月は製紙用パルプのみ，11月に入ると人絹用パルプ800噸，製紙用400噸，12月は人絹用1000噸，製紙用200噸が生產される。來年からは人絹用パルプ年產2萬噸の豫定であるが，開業早々のことであるし2萬噸全部が人絹用といふ譯に行かぬかもしれぬ。

重役：〔社長〕菊本直次郎，〔專務〕常田健次郎，〔常務〕兒玉清助，〔取締〕廣瀬次郎，田村駒治郎，遠山元一，上田源三郎，森平藏，永田隼之助，林原兼賢，藤田好三郎，下郷豊彦，〔監査〕新坂儀助，岩切常太郎，大家七兵衛，瀬尾喜一郎，古莊健次郎，〔相談役〕今村奇男，下郷傳平

國策パルプ工業

國策パルプ會社案はすでに昨冬より發表されてゐたが，ス・フ業者と製紙業者の反目，社長問題，技術者問題等で相當揉めたゝめ其設立は意外に延びて了つた。しかしパルプ自給計畫の遂行は急を要する事業であり，こと國策に關するといふわけで當局の慫慂もあり，上記の問題も一應落着し遂に本年5月20日正式に設立を見るに至つたのである。資本金1億圓，4分1拂込で出資者は人絹，ス・フ會社34社，製紙會社8社である。出資割合は前者75%，後者25%，このうち人絹，ス・フ會社の出資額及び株數は下の如くである。

（會社名）	（出資額）	（株數）
出雲製織	1,690千圓	33,800
新潟人絹工業	655	13,100
日本レイヨン	4,130	82,600
日本人造羊毛	1,030	20,600
日本人造纖維	1,220	24,400
壽纖維工業	565	11,300
日曹人絹パルプ	1,125	22,500
日清レイヨン	2,250	45,000
日東紡織	2,815	56,300
紡機製造	1,405	28,100
東邦人造纖維	1,405	28,100
東洋紡績	4,595	91,900
東洋レーヨン	4,880	97,600
東洋絹織	1,830	36,600
東京人造絹糸	4,130	82,600
豊田光棉紡績	45	900
鐘紡	2,580	51,600
大日本紡	1,080	21,600
第二帝人	1,830	36,600
太陽レーヨン	5,065	101,300
倉敷絹織	5,440	108,800

福島人絹	2,675千圓	53,500株
富士纖維	845	16,900
帝人	5,395	107,900
旭ベンベルグ	4,910	58,200
岸和田人絹	565	11,300
錦華人絹	1,830	36,600
明正レイヨン	940	18,800
新興人絹	2,580	51,600
庄内川レイヨン	1,125	22,500
昭和人絹	3,800	76,000
新日本レイヨン	1,405	28,100
日出紡織	750	15,000
日本毛織	420	8,400

國策パルプ設立の經緯，又王子との對立問題に關しては世上に種々の話も傳はつてゐるが，とにかく現在では着々準備中である。用機は輸入が駄目になつたので石川島に發注したが，第一期5萬噸の分は大體來年中に據附が出來ずらしい。工場は今のところ北海道に3つほど造る計畫である。第一期工場は旭川に建設する樣だが第二期，第三期はどこに持つてくるか（野付牛，釧路が有望視されてゐるが）未だ決定してゐない。第一工場の工事が始まると第二・第三も直ぐ續いて建設にとりかゝると會社では言つてゐるが，此の方は機械が少し遲れると思はれるので，最初の豫定昭和15年度123,000噸の生産は到底困難であると思はれる。

製品パルプは大體人絹用60%，製紙用40%の割合で生産する豫定だが，これも其の時の事情で大分變更されるものと見なければならぬ。原木供給の方は北海道廳の積極的なる後援があり此の方は全然不安はない。

國策パルプはとにかく今のところ纖維會社が重心となつてゐるが，これに對し製紙會社を中心とした第二國策パルプを設立せんとする計畫があつたが，原木入手難機械獲得難もあり當局のパルプ會社新設不許可主義のため立ち消えになつた。或ひは此の計畫が國策パルプに合流するかもしれぬ。

國策パルプの今後の動向は種々の意味で注目されてゐる。しかし餘日非難・焦燥せずに見守つて行くことが必要と思はれる。

重役：〔社長〕宮嶋清次郎，〔副社長〕高田直屹，〔專〕細川利壽，〔常務〕水口出世，貴島圭三，〔常勤取締〕栗田金太郎，〔取締〕庄司乙吉，津田信吾，小寺源吾，久村清太，辛島淺彦，井倉三平，大原孫三郎，河崎助太郎，菊池文吾

大昭和製紙

當社は昭和製紙・岳陽製紙・大正工業・駿府製紙・昭和產業の5社合併によつて成立した會社である。本年8月6日設立認可，9月1日創立したが，新會社の中心は昭和製紙であり同社について先づ述べてみる。

昭和製紙は昭和2年3月資本金10萬圓を以て創立，和洋紙の製造に當つてゐたが8年5月50萬圓に增資すると同時に齋藤商會を合併して資本金100萬圓となる。更に11年8月パルプ工業への進出を企圖して150萬圓を增資し250萬圓に膨脹した。工場は第一工場（靜岡縣富士郡吉永村），第二工場（富士郡今泉村），第三工場（富士郡元吉原村）とあるが，此の第三工場がパルプ工場であつて山梨縣から原木を運んで來て自家用の製紙パルプを造るのが當初の目的である。グラウンドの方は本年5月より動いてゐるがサルフアイトの方は9月より動く。本年度の見込生產高はグラウンド2,300噸，サルフアイト1,400噸，合計3,700噸であるが，來年からは年產8,000噸の豫定である。

ところが茲で注意すべきは當社の人絹パルプ製造計畫である。當社は地方會社であるから原價高による洋紙販賣收益減が少くない。此の減益を儲けの多い人絹パルプでカヴアーしようといふのである。當社の買收した上記山梨縣の山は材積200萬石と言はれ材質もいゝので目下鋭意研究中の由だが，未だ具體的に人絹パルプに取りかゝつてはゐない。

當社の社長は齋藤知一郎氏であるが，此の齋藤氏一族が岳陽製紙・大正工業等にそれぞれ關係してゐる。それで經營を合理化するために關係各社を合流して今度の大昭和が生れたわけである。大昭和の構成分子たる他の4會社は下記の如きものである。

岳陽製紙（靜岡縣富士郡岩松村松岡）—昭和10年7月創立，資本金100萬圓，拂込50萬圓，社長は齋藤信吾氏

大正工業（富士郡富士奥村小泉）—大正8年1月創立，資本金100萬圓，拂込67萬5千圓，社長は佐野貞作氏

駿府製紙—資本金10萬圓

昭和產業—資本金50萬圓

大昭和の誕生によつて舊昭和製紙の人絹パルプ進出計畫はいよいよ拍車をかけられるものと見られる。

重役：〔會長〕齋藤知一郎，〔社長〕佐野貞作

太陽パルプ

昭和12年9月，昭和纖維工業と北辰製紙を買收して出來た新設會社である。資本金100萬圓，全額拂込濟である。パルプ工場は東京砂町工場と埼玉縣戸田工場であるが，從來より操業してゐるのは製紙用パルプ製造の砂町工場で，戸田工場はこの8月より操業開始したばかりである。砂町工場のパルプ生產設備は最近擴張工事完成したので，13年度見込製紙用パルプ生產高はサルフアイト5,000噸，グラウンド10,000噸，クラフト3,750噸，合計18,750噸である。これらの原木には主として內地材赤松を用ひてゐる。

戸田工場の生產能力は今のところ製紙用パルプ年產5,580噸，人絹パルプ1,800噸である。人絹パルプはどういふものが出來るのか未だ製品は出てゐないので判らないが，工場長新豊作氏は舊樺工の技師であり人絹パルプに付いては經驗があるから充分自信あるものゝ樣である。

太陽パルプは更に二つの計畫を持つてゐる。一つは當社が伐採權を有する山梨縣々有林附近にパルプ工場を設け月產300噸のグラウンドパルプを生產せんとするのである。この山の面積400町歩，材積はモミ・ツガ等が75萬石あるが，パルプにするのは此の全部ではない。良質のものと惡いものは賣却し中間のものだけをパルプにするのである。

今一つは岩手縣に工場建設計畫である。はじめ東北振興パルプが工場建設地を決定するに當り東北諸縣は工場誘致の運動を盛んにやつた。ところが岩手縣は遂に駄目になつたので縣下農村は太陽パルプに對して働きかけ，そこで當社も食指が動いてゐるといふわけである。

上記の計畫が具體化するとなれば資金が要る。その爲當社は近く增資（300萬圓）するだらうと言はれてゐる。

重役：〔專務〕杉田利盛，〔常務〕新豊作，〔取締〕山本源治，安藤信彦，山上喜一，〔監査役〕大久保賴之助

高崎板紙

當社（資本金1千萬圓）の事業の中心は言ふ迄もなく板紙である。大正3年創立以來順調に發展して來たが板紙は最近生產過剩で商況不冴え，ために當社の業績も低下し12年上期迄2割5分の配當を續けてゐたが下期以後1割5分に減配した。この板紙の不振をパルプ製造で挽回するためかねて栃木縣に日光工場を建設中であつ

たが，漸く來る11月完成を見る運びとなつた。

日光工場では同地方の松材を原料としてクラフト・パルプを製造，更にクラフト紙を抄造する計畫である。操業開始は年末になるが，生產能力は年產8,000噸の豫定である。尙當社は藁パルプを製造するといふ話も傳へられてゐるが，計畫內容は判明しない。

重役：〔社長〕井上保三郎，〔副社長〕高木千尋，〔專務〕小柏朝光，〔常務〕黑崎義平〔取締〕櫻井伊兵衛，篠原定吉，木村重三郎，井上房一郎，相澤吉平，〔常勤監査〕淸水新一郎，〔監査〕秋山萬吉，井上米三郎，芥川辰次郎，伊藤常七，〔相談〕矢杉寛，齋藤太兵衛

樺太木材紙料

大正8年7月創立された樺太木材紙料はパルプ專業の會社で，木材會社の新宮商行の子會社である。從來より樺太材・北海材を原料として富山伏木工場でグラウンド・パルプを製造してゐたが最近の生產高は次の如くである。

昭和8年	9年	10年	11年	12年
4,500	5,306	6,879	7,000	8,500

13年の見込生產高は9.000噸であるが，年々生產高は增加してゐる。此の趨勢を見た親會社新宮商行は又新たに和歌山縣方面でグラウンド・パルプ專門の別會社を作らんと計畫してゐる。但しパルプ會社濫伐を防いで不許可方針をとつてゐる當局が許可するかどうかは問題である。さうなれば當社の擴張增產が豫想される。

重役：〔社長〕利光小三郎，〔專務〕坂口茂次郎，〔取締〕山崎正忠，〔監査〕平野久三郎

東海紙料

明治40年の創立，資本金400萬圓，拂込250萬圓，大倉系のグラウンド・パルプ專業の會社である。工場は靜岡縣の島田にある。最近の生產高は

昭和8年	9年	10年	11年	12年
1.447	2,086	2,705	3,170	8,495

本年の見込生產高は樺太木材紙料と同じく9.000噸である。原木は主として樺太材を用ひてゐる。

昭和12年度原木使用量

樺太材	61.5000石	內地材	8,600石

重役：〔會長〕大倉喜七郎，〔常務〕荒井彦宗

高千穗製紙

前編「新原料パルプ」の項にて述べたる如く高千穗製紙は最初マオランパルプ製造の計畫であつたが，途中で木材に轉向した。當社は昨年6月の設立，資本金200萬圓（全額拂込濟）。事業主體は大川系であるが，資本系統は東京電氣である。東京電氣は最近多角化の方向に進み，グラス・フアイバー，パルプ製造に積極的に乘り出した。高千穗の製品も大川系各社と共に東京電氣系各工場に送られる筈である。

當社の工場は福岡縣古賀町に在る，かねて工事中であつたが本年8月に完成，9月より操業に入る。原木は九州地方の赤松を用ひ製紙用サルフアイト・パルプ日產25噸の豫定である。マオラン・パルプの方は當分中止の模樣である。

重役：〔社長〕大川義雄，〔副社長〕大川理作，〔取締〕大村養之助，野口專太郎，井上眞治郎，天津友雄，〔監査〕大村五左衛門，河村允助，福井盛太，〔相談役〕山口喜三郎

日本製紙

當社は印刷用紙・國定教科書用紙製造の製紙會社であるが，自家用のパルプを自給するため年產7,000噸のグラウンド・パルプを東京袋町の本社工場に於いて製造せんとする計畫を持つてゐる。原木は樺太材と內地材を使用する豫定である。

創立：大正7年　　資本金：300萬圓（拂込225萬圓）

重役：〔社長〕石川正作，〔取締〕野間淸治，三樹退三，石川寅吉，岡本秀三，日黑甚七，〔監査役〕川合普，渡邊菅造，佐々木龍一郎，〔相談役〕原亮一郎

巴川製紙所

當社は印刷用紙・特種紙・パーチメント原紙・受信用紙・絕緣紙等の製紙會社であるが，日本製紙と同じく年產7,000噸のパルプ工場を淸水工場內に建設計畫中である。勿論パルプは自家用に當てる。原木は靜岡地方の松材を用ふる筈。

創立：大正6年8月　　資本金：150萬圓（全額拂込濟）

重役：〔社長〕井上源之亟，〔取締〕松本留吉，岡田顯三，松本新太，井上光治〔監査〕中內鉉一郎

浪速製紙

製紙用パルプ及抄紙兼業，工場は大阪大開町に在る。パルプは殆ど自家用。グラウンド・パルプの最近生產高は

昭和8年	9年	10年	11年	12年
3,467噸	3,230	4,115	5,902	6,527

創立：昭和3年12月　　資本金：250萬圓(拂込162,5萬圓)

重役：〔常務〕金澤保二郎，〔取締役支配人〕後藤多賀雄，〔取締〕柏原孫左衛門，角田芳太郎，〔監査〕信貴英藏，三品幸造，〔相談役〕田原豊

滿洲パルプ會社

東邦パルプ工業

當社は東滿洲人絹パルプ(滿洲國法人)の投資會社である。東邦は昨年3月資本金1,500萬圓を以て創立，同年7月東滿人絹パルプを吸收合併し資本金3,000萬圓(750萬圓拂込)となつた。いづれ近き將來に滿洲パルプ工業と同じく投資會社と事業會社は一元化するものと見られる。資本系統は始め大川系であつたが後鐘紡に移つた。

工場は間島省開山屯に在る。滿洲四社のうちで最も早く操業に入り昨年末試運轉すでに本年春より製品は市場に出てゐる。本年度見込生產高は8,000噸といふことになつてゐるが，開業早々のことであり實產は大分割引しなければならぬと思はれる來年度は滿洲各社と同じく15,000噸の豫定である。

重役：〔會長〕津田信吾，〔社長〕赤司初太郎，〔取締役〕後宮信太郎，城戸季吉，三宅鄉太，菊本直次郎，上田源三郎，〔監査〕中村庸，岩崎清七

滿洲パルプ工業

當社は從來滿洲パルプ工業股份有限公司と稱せられ日本法人滿洲パルプ工業の投資會社であつたが，去る8月1日日本法人會社は解散，當社も社名を改稱して滿洲パルプ工業株式會社となつた。本社及び工場は牡丹江市樺林に在り，支店を新京・東京・大阪に置いてゐる。資本金1,000萬圓(半額拂込)，資本系統は始め寺田系であつたが，現在は三菱色が濃厚である。

11年5月工場の建設に着手したが，ドイツからの機械が輸送中破損しその修理で手間取つて操業が遅れたが，本年6月10日より本格的に運轉してゐる。最初の豫定では年產能力2萬噸のうち人絹用70%，製紙用30%であるが，人絹用の方の設備が未だ整はないため本年一杯は製紙用パルプのみである。目下月產600噸。來年は他社と同じく15,000噸生產の豫定であるが，此のうち人絹用パルプは8,000噸，製紙用

は7,000噸といふ割合である。

重役：〔會長〕寺田元之助，〔社長〕高橋鍊逸，〔常務〕木下莊，〔取締〕山田馬次郎，赤松範一，南鄉三郎，岸本五兵衛，尼崎芳雄，二國三樹三，信貴英藏，奥田保邦，眞繼俊一，〔監査〕寺田甚吉，山本留次，植村家治，王刑山

日滿パルプ製造

日滿パルプ敦化工場は滿洲パルプより少し遲れて7月初より操業開始した。當社は日本人絹パルプ・北鮮製紙化學で得た豊富な經驗を持つ王子の子會社である。人絹パルプの本年度見込生產高は3,000噸といふことになつてゐる。來年度生產高15,000噸のうち格下げ品もあるとして人絹パルプ12,000噸の生產は豫想され得る。當社の創立は昭和9年5月，資本金1,000萬圓，半額拂込濟。

重役：〔社長〕藤原銀次郎

東洋パルプ

日毛の川西系である當社は創立昭和11年1月，資本金1,000萬圓，半額拂込濟，工場は間島省石峴に在る。工場の建設に着手したのは昨年5月であるが，工事は意外に順調に運び本年7月完成，8月試運轉，9月より本格的の操業に入つた。本年の見込生產高は人絹パルプ2,000噸であるが，來年は15,000噸生產の豫定。但し開業早々の當社が15,000噸全部を人絹パルプとして出し得るかどうかは少し疑問である。

尙當社は王子との合併が不調に終つて王子の持株は三菱に肩替りしたと傳へられてゐるが，會社側では三菱の資本は入つてゐないと言つてゐる。(別表「全國パルプ會社一覽表」に當社の株主として三菱製紙が掲載せられてゐるが，會社側より記事訂正の申込がありたるにより三菱製紙は取除かれたし。)

重役：〔社長〕塚脇敬二郎，〔專務〕成田務，〔取締〕川西龍三，伊藤忠兵衛，八馬兼介，〔監査〕毛戸勝元

鴨綠江製紙

大正8年設立，昭和9年王子の委託經營となる。パルプは製紙パルプであるが，自家用に供した殘りは內地へ送つてゐる。鴨綠江材・朝鮮材を原料として年產1萬5千噸に達してゐる。

最近生產高（單位噸）

	昭和8年	9年	10年	11年	12年
サルファイト	15,252	11,580	11,509	10,793	12,618

グラウンド	2,109	2,109	2,209	2,378	2,393
(計)	17,361	13,737	13,718	13,171	15,011

13年度見込はサルフアイト15,200噸，グラウンド2,400噸，合計17,600噸である。

重役：〔會長〕大倉喜七郎，〔副會長〕長谷川太郎吉，〔專務〕足立正，〔常務〕牟田吉之助，河原三郎，〔取締〕井上憲一，速見篤次郎，高島菊次郎，〔相談役〕藤原銀次郎，門野重九郎，田中榮八郎

興安嶺パルプ（假稱）

大小興安嶺を中心とする滿洲國策パルプ會社案はしばしば喙に上つてゐたが，最近いよいよ滿洲國實業部と我が商工省の間に具體的交渉が進められるに至つた。滿洲國政府の案によると大體下記の如きものが新會社の骨子である。

①資本金2億圓，4分1拂込

②出資割當は滿洲國政府が5割を占め。殘りの5割は人絹聯合會，ス・フ聯合會製紙聯合會が引受ける。

③事業計畫は小興安嶺並に大興安嶺の森林を一括して開發，數ケ所（佳木斯，牙克石，黑河等）に工場を設け年產23噸の人絹用・製紙用パルプを製造する。

④第一次計畫の完成は5ケ年後（昭和17年の豫定）。

しかし此の計畫に對しては既設4社（東邦・滿洲パルプ・日滿・東洋）の增產問題があり，新會社設立迄には種々の經緯があるものと思はれる。

〔追　　補〕

日本人造纖維—桑條パルプ

日本人纖のス・フ工場は群馬縣前橋市に在るが，同地方は養蠶の盛んなる所であり桑木が豐富にあるので，當社はかねて自家用の桑條パルプ製造の計畫を有し，工場建設資金認可申請をして居たが最近認可された。パルプ工場は日產6噸，當社の需要パルプの約半分は供給し得る譯だ。工場建設費88萬圓，完成は14年末の豫定。日本人纖の內容は下記の如くである。

（本社並に工場）　前橋市岩神町

（出張所）　東京市深川區佐賀町1丁目・名古屋市西區大船町3丁目

（創　　立）　昭和9年9月

（資本金）　1,000萬圓（拂込437萬圓）

（關係會社）　當社は株式會社木村德兵衛商店の子會社

（決算期）　6月，12月　（最近配當）　6分

重役：〔社長〕木村德兵衛，〔常務〕村田操，木村球四郎

職員：〔工場長〕遠藤完太郎，〔工場長代理〕深井九一郎

——以上，昭和13·9·9——

附記—簡易曹達パルプ製造工場については「人絹界」昭和13年9月號第54頁以降に記載せる故參照せられたし。

紡織雜誌社調査部調 (昭和13年8月現在)

人絹用 製紙用 パルプ製造會社一覽表 (五十音順)

註 1, 本表には現在設立計
2. 簡易曹達パルプ工場
3, 重役氏名は會長・副會
4, 生產高は概ね會社側の

	會社名	本社及び營業所・出張所	主腦部	創立 (年 月)	資本金 (括弧内ハ拂込) (千圓)	最近配當 (割)	決算期 (月)	パルプ製造工場 工場名	工場長	所在地	主要原料	製造開始	生產能力 (年產) 人絹用パルプ (噸)	製紙用パルプ (噸)	機械種類及臺數
木材パルプ會社 (計畫中のものを	鴨綠江製紙	滿洲國安東縣安東市外(電163),〔出〕東京市麴町區有樂町1ノ10三信ビル	(會長)大倉喜七郎(副會長)長谷川太郎吉(專)足立 正(常)河原三郎(常)平田吉之助	大正 8. 5	5,000 (4,000)		4. 10	安東工場	黑川末喜	安東市外六道溝	朝鮮材 滿洲材	大正9年		17,600	ダイゼスター グラインダー
	樺太木材紙料	富山縣射水郡能町村吉久新481 (電新湊127)	(長)利光小三郎 (專)坂口茂次郎	大正 8. 7	700 (全額拂込)	0.6	9月	伏木工場	山崎正忠	富山縣射水郡能町村吉久	樺太材 北海道材	大正9年		8,500	グラインダー
	國策パルプ工業	東京市日本橋區富澤町第百銀行ビル,〔支店〕大阪市東區北濱2片倉ビル(北濱1419)	(長)宮嶋清次郎 (副)高田 直屹 (專)細川 利壽 (常)栗田金太郎	昭和13. 4	80,000 (20,000)	無		未定	未定	北海道及內地に4,5工場建設の豫定	內地材 北海道材	昭和14年末	123,000 (初年度)		不
	山陽パルプ工業	東京市麴町區有樂町1ノ10三信ビル (電銀座2487)	(長)高島菊次郎 (專)田中 治朗 (專)井上 憲一 (常)溝口 新平	昭和12. 4	20,000 (5,000)	無	5. 11	麻里布工場	三輪次武	山口縣玖珂郡麻里布町	內地材 (主として赤松)	昭和14. 3	40,000		パルプマシン
	昭和製紙	靜岡縣富士郡吉永村比奈(電吉原165),〔出〕東京市日本橋區茅場町澁澤倉庫ビル	(長)齊藤知一郎	昭和 3. 4	2,400 (1,350)	1.5	11月	富士(第三)工場	ナシ	靜岡縣富士郡吉永村	內地材	昭和13. 3		7,000	ダイゼスター グラインダー
	太陽パルプ	東京市京橋區銀座西8丁目8 (電銀座5241)	(專)杉田 利盛 (常)新 豐作	昭和12. 9	1,000 (全額拂込)	1.0	5. 11	砂町工場 / 戸田工場	吉野榮治 / 新豐作	東京市城東區南砂町8 / 埼玉縣北足立郡戸田村	內地材 / 內地材	昭和3年 / 昭和13. 8	1,800	2,700 / 5,580	グラインダー / グラインダー ダイゼスター
	高崎板紙	高崎市八島町(電353),〔出〕東京市神田區五軒46	(長)井上保三郎 (副)高木 千尋 (專)小柏 朝光 (常)黑寄 義平	大正 3. 3	10,000 (3,210)	2.5	3. 9	日光工場	角田武雄	栃木縣河內郡古里村	內地材 (松材)	昭和13. 11		8,000	グラインダー
	高千穗製紙	東京市麴町區內幸町2ノ3(電銀座1772),〔出〕福岡縣糟屋郡古賀町大字鹿野	(長)大川 義雄 (副)大川 理作	昭和12. 6	2,000 (全額拂込)	無	5. 11	福岡工場	未定	福岡縣糟屋郡古賀町大字鹿野	內地材	昭和13. 8		7,500	ダイゼスター
	東海紙料	靜岡縣志太郡島田町 (電島田23)	(長)大倉喜七郎 (常)數田 春馬	明治40. 12	4,000 (2,500)			島田工場		靜岡縣志太郡島田町	樺太材 內地材	明治41年		8,000	グラインダー
	東邦パルプ工業	東京市向島區隅田町2ノ1612 (電隅田7055)	(會長)津田信吾 (長)赤司初太郎	昭和13. 3	30,000 (7,500)	無	5. 11	開山屯工場	河村浩逸	滿洲國間島省和龍縣開山屯	滿洲材	昭和13. 4	10,000 (初年度)		ダイゼスター
	東北振興パルプ	東京市麴町區有樂町1ノ10三信ビル	(會長)藤原銀次郎(長)高島菊次郎 (副)田中 治朗 (常)金森 太郎 (常)石上林二郎 (常)山中 鎌治 (副)光澤 義男 (常)村上 義雄	昭和13. 1	50,000 (12,500)	無	5. 11	石卷工場 / 土崎工場	未定	宮城縣石卷市釜大街 / 秋田縣土崎町	內地材 (針葉樹 40 % 濶葉樹 60 %)	昭和15年春	35,000	15,000	不
	巴川製紙所	清水市入江364(電666),〔出〕東京市牛込區新小川町114(電牛込412)	(長)井上源之丞	大正 6. 8	3,000 (2,250)	0.8	5. 11	清水工場		靜岡縣清水市入江	內地材	未定		7,000	未
	東洋パルプ	滿洲國間島省汪清縣春華村石峴,〔出〕神戸市神戸區西町日本生命ビル	(長)塚脇敬二郎 (專)成田 努	康德 3. 9	10,000 (5,000)	無	3. 9	石峴工場	岡井潤吉	間島省石峴 (圖佳線石峴驛)	滿洲材	昭和13. 10	14,000	1,000	ダイゼスター パルプマシン
	浪速製紙	大阪市此花區大開町3052 (電土佐堀577)	(常)金澤保次郎	昭和 3. 12	2,500 (1,625)			大開工場		大阪市此花區大開町	樺太材 內地材			6,500	グラインダー
	日曹人絹パルプ	東京市麴町區大手町2ノ8 (電丸ノ內1271)	(長)中野 友禮 (常)金井 滋直	昭和12. 3	30,000 (7,500)	無	5. 11	富山工場	中村一元	富山市中島16	樺太材 カナダ材	昭和13. 7	20,000		ダイゼスター
	日本製紙	東京市王子區袋町1ノ2050 (電赤羽24)	(長)石川 正作	大正 7. 3	3,000 (2,250)	0.7	5. 11	本社工場	木村季吉	東京市王子區袋町1丁目	樺太材 內地材	昭和4年		7,000	
	日滿パルプ製造	新京特別市豐樂路,〔出〕東京市麴町區有樂町1ノ10三信ビル	(長)藤原銀次郎	昭和11. 8	10,000 (5,000)	無	10月	敦化工場	金庭秀松	滿洲國吉林省敦化	滿洲材	昭和13. 8	10,000		ダイゼスター
	日本人絹パルプ	樺太敷香町,〔營〕東京市麴町區有樂町1ノ10三信ビル	(長)高島菊次郎 (專)光澤 義男 (專)溝口 新平	昭和 7. 4	20,000 (全額拂込)	1.0	5. 11	敷香工場	木下又三郎	樺太敷香町	樺太材	昭和10. 6	30,000	15,000	ダイゼスター
	日本パルプ工業	〔大阪市北區曾根崎上2共同ビル (電北3420),〔出〕東京市日本橋區室町2三和ビル(電日本橋	(長)菊本直次郎 (專)常田健次郎 (常)林原 銓吾 (常)兒玉 清助	昭和12. 6	20,000 (5,000)	無	4. 10	飫肥工場	兒玉清助	宮崎縣南那珂郡吾田村一里松	內地材 (杉)	昭和13. 9	20,000		ダイゼスター

人絹用 製紙用 パルプ製造會社一覽表（五十音順）

註
1，本表には現在設立計畫中のパルプ會社をも記載せり。
2．簡易曹達パルプ工場は省略す。
3，重役氏名は會長・副會長・社長(長)副社長(副)・專務取締役(專)・常務取締役(常)のみを記載せり。
4，生產高は概ね會社側の回答に從ひたり。

部	創立	資本金（括弧内ハ拂込）	最近配當	決算期	パルプ製造工場			主要原料	製造開始	生產能力（年產）		機械種類及臺數	大株主	要錄
					工場名	工場長	所在地			人絹用パルプ	製紙用パルプ			
	年 月	千圓	割	月						噸	噸			
谷川三郎	大正 8. 5	5,000 (4,000)		4. 10	安東工場	黑川末喜	安東市外六道溝	朝鮮材 滿洲材	大正9年		17,600	ダイゼスター3 グラインダー1	大倉組，王子證券，大川合名，田中榮八郎	
次郎	大正 8. 7	700 (全額拂込)	0.6	9月	伏木工場	山崎正忠	富山縣射水郡能町村吉久	樺太材 北海道材	大正9年		8,500	グラインダー3	株式會社新宮商行	
直屹太郎	昭和13. 4	80,000 (20,000)	無		未定	未定	北海道及內地に4,5工場建設の豫定	內地材 北海道材	昭和14年末	123,000 (初年度)		不詳	總株數のうち人絹，ス・フ側33社(75%)製紙側8社(25%，但し王子を除く)	生產豫定は16年度150,000噸，17年度162,000噸(內人絹用102,000噸，製紙用60,000噸)
治朗 新平	昭和12. 4	20,000 (5,000)	無	5. 11	麻里布工場	三輪次武	山口縣玖珂郡麻里布町	內地材 (主として赤松)	昭和14. 3	40,000		パルプマシン2	王子證券	昭和13年4月15日工場地鎭祭執行，現在建設工事中
	昭和 3. 4	2,400 (1,350)	1.5	11月	富士(第三)工場	ナシ	靜岡縣富士郡吉永村	內地材	昭和13. 3		7,000	ダイゼスター2 グラインダー1		近く大正工業，岳陽製紙，駿府製紙，昭和產業の4社を合併し「大昭和製紙株式會社」となり，人絹パルプ生產に乘り出す筈
豐作	昭和12. 9	1,000 (全額拂込)	1.0	5. 11	砂町工場 戸田工場	吉野榮治 新豐作	東京市城東區南砂町8 埼玉縣北足立郡戶田村	內地材 內地材	昭和3年 昭和13. 8	1,800	2,700 5,580	グラインダー8 グラインダー4 ダイゼスター6	杉田利盛，山本源治，新豐作，大久保組之助	戶田工場は現在建設中，又岩手縣に人絹パルプ工場建設の計畫あり，この爲現在の資本金を300萬圓に增資する
千尋 義平	大正 3. 3	10,000 (3,210)	2.5	3. 9	日光工場	角田武雄	栃木縣河內郡古里村	內地材 (松材)	昭和13. 11		8,000	グラインダー	前田利爲，清水新一郎，共川辰次郎，井上房一郎	主として自家用のクラフトパルプ製造の爲現在工場建設中
理作	昭和12. 6	2,000 (全額拂込)	無	5. 11	福岡工場	未定	福岡縣糟屋郡古賀町大字鹿野	內地材	昭和13. 8		7,500	ダイゼスター1	東京電氣，大川義雄	近年多角的に進出せる東京電氣の傘下に當社は收められたり最初はマオランパルプ製造計畫なりしも一時木材パルプに轉向せり
春馬	明治40. 12	4,000 (2,500)			島田工場		靜岡縣志太郡島田町	樺太材 內地材	明治41年		8,000	グラインダー4	大倉組	
太郎	昭和13. 3	30,000 (7,500)	無	5. 11	開山屯工場	河村浩逸	滿洲國間島省和龍縣開山屯	滿洲材	昭和13. 4	10,000 (初年度)		ダイゼスター2	鐘紡，東邦人纖，赤司初太郎，常田健次郎	次年度の生產高15,000噸。開山屯工場は東滿洲人絹パルプ株式會社の工場，當社は東滿人絹の持株會社なり
次郎 太郎 鍊治 義雄	昭和13. 1	50,000 (12,500)	無	5. 11	石卷工場 土崎工場	未定	宮城縣石卷市釜大街 秋田縣土崎町	內地材 (針葉樹 40% 濶葉樹 60%)	昭和15年春	35,000	15,000	不詳	王子製紙，東北興業	使用原料のうち，濶葉樹は主としてブナ材を用ふ，工場建設に取りかゝりたり
	大正 6. 8	3,000 (2,250)	0.8	5. 11	清水工場		靜岡縣清水市入江	內地材	未定		7,000	未定		碎木パルプ製造を計畫中なり，製品は自家用
務	康德 3. 9	10,000 (5,000)	無	3. 9	石峴工場	岡井潤吉	間島省石峴(圖佳線石峴驛)	滿洲材	昭和13. 10	14,000	1,000	ダイゼスター2 パルプマシン1	日本毛織，三菱製紙，伊藤忠	現在工場建設中
	昭和 3. 12	2,500 (1,625)			大開工場		大阪市此花區大開町	樺太材 內地材			6,500	グラインダー2		主として自家用
滋直	昭和12. 3	30,000 (7,500)	無	5. 11	富山工場	中村一元	富山市中島16	樺太材 カナダ材	昭和13. 7	20,000		ダイゼスター2	日本曹達	當社製品の中約5,000噸は八代工場へ供給，其の他は市販す
	大正 7. 3	3,000 (2,250)	0.7	5. 11	本社工場	木村季吉	東京市王子區袋町1丁目	樺太材 內地材	昭和4年		7,000			碎木パルプ製造計畫中
	昭和11. 8	10,000 (5,000)	無	10月	敦化工場	金庭秀松	滿洲國吉林省敦化	滿洲材	昭和13. 8	10,000		ダイゼスター2	王子證券	次年度生產高は人絹用15,000噸
義男 新平	昭和7. 4	20,000 (全額拂込)	1.0	5. 11	敷香工場	木下又三郎	樺太敷香町	樺太材	昭和10. 6	30,000	15,000	ダイゼスター7	王子證券	
次郎 清助	昭和12. 6	20,000 (5,000)	無	4. 10	飫肥工場	兒玉清助	宮崎縣南那珂郡吾田村一里松	內地材(杉)	昭和13. 9	20,000		ダイゼスター4	壽纖維工業，仁壽生命，藤本ビルブローカー	當社への原木供給は子會社日興木材が當つてゐる
義平	明治40. 5	12,000	1.0	5. 11	新潟工場	小林宗作	新潟市沼垂町1573	北洋材 內地材	大正4年		42,500	ダイゼスター3 グラインダー9	山口誠太郎，田村文之助，櫻井義平，小川清一郎	生產能力は本年9月完成すべき增設の分を含む。新潟板紙を合併に決定，よつて資本金は1315萬圓となる筈

曹社（計畫中のものを含む）	東洋パルプ	神戸區西町日本生命ビル	(長)原脇敏一郎 (専)成田 勞	昭和 3. 9	(5,000)	無	3. 9	石巻工場	岡井潤吉	問島省石巻（圓住線石巻驛）	滿洲材	昭和13. 10	14,000	1,000	（パルプマシン
	浪速製紙	大阪市此花區大開町3052（電土佐堀577）	(常)金澤保次郎	昭和 3. 12	2,500 (1,625)			大開工場		大阪市此花區大開町	樺太材 内地材			6,500	グラインダー
	日曹人絹パルプ	東京市麴町區大手町2ノ8（電丸ノ内1271）	(長)中野 友禮 (常)金井 滋直	昭和12. 3	30,000 (7,500)	無	5. 11	富山工場	中村一元	富山市中島16	樺太材 カナダ材	昭和13. 7	20,000		ダイゼスター
	日本製紙	東京市王子區袋町1ノ2050（電赤羽24）	(長)石川 正作	大正 7. 3	3,000 (2,250)	0.7	5. 11	本社工場	木村季吉	東京市王子區袋町1丁目	樺太材 内地材	昭和 4年		7,000	
	日滿パルプ製造	新京特別市豊樂路，〔出〕東京市麴町區有樂町1ノ10三信ビル	(長)藤原銀次郎	昭和11. 8	10,000 (5,000)	無	10月	敦化工場	金庭秀松	滿洲國吉林省敦化	滿洲材	昭和13. 8	10,000		ダイゼスター
	日本人絹パルプ	樺太敷香町，〔營〕東京市麴町區有樂町1ノ10三信ビル	(長)高島菊次郎 (専)光澤 義男 (専)溝口 新平	昭和 7. 4	20,000 (全額拂込)	1.0	5. 11	敷香工場	木下又三郎	樺太敷香町	樺太材	昭和10. 6	30,000	15,000	ダイゼスター
	日本パルプ工業	大阪市北區曾根崎上2共同ビル（電北3420），〔出〕東京市日本橋區室町2三和ビル（電日本橋1006）	(長)菊本直次郎 (常)林原 兼賢 (専)常田健次郎 (常)兒玉 清助	昭和12. 6	20,000 (5,000)	無	4. 10	飫肥工場	兒玉清助	宮崎縣南那珂郡吾田村一里松	内地材（杉）	昭和13. 9	20,000		ダイゼスター
	北越製紙	長岡市藏王町800（電505），〔出〕東京市日本橋區本石町3ノ2（電日本橋1473），大阪阪東區瓦町3ノ2（電北濱3720）	(專)田村 文吉 (常)田村文之助 (常)覺張 義平	明治40. 5	12,000 (7,500)	1.0	5. 11	新潟工場	小林宗作	新潟市沼垂町1573	北洋材 内地材	大正 4年		42,500	ダイゼスター グラインダー
	北越パルプ	長岡市藏王町800（電505），〔出〕東京市日本橋區本石町3ノ2（電日本橋1473），大阪市東區瓦町3ノ2（電北濱3720）	(專)田村 文吉 (常)中村 恒 (常)小林 宗作	昭和12. 5	6,000 (4,500)	0.5	5. 11	新潟工場	小林宗作	新潟市外石山村鵜戈	カナダ材	昭和13. 4	20,000		ダイゼスター
	北鮮製紙化學工業	朝鮮咸興北道吉州郡英北面，〔出〕東京市麴町區有樂町三信ビル	(長)藤原銀次郎 (專)藤原 喜藏 (副)足立 正 (專)横井半三郎	昭和10. 4	20,000 (10,000)	1.0	3. 9	吉州工場	片平憲次郎	咸興北道吉州郡英北面	朝鮮材	昭和11. 11	22,000		ダイゼスター
	滿洲パルプ工業	大阪市北區中之島2ノ25（電北濱2985），〔出〕新京特別市錦町3ノ1	(長)寺田元之助 (專)高橋 鎌逸	昭和 9. 5	10,000 (5,000)	無	3. 9	樺林工場	奥田保邦	滿洲國牡丹江市樺林	滿洲材	昭和13. 6	10,000 (初年度)		ダイゼスター
	王子製紙	東京市王子區王子町（電小石川204），〔營〕東京市麴町區有樂町三信ビル（電銀座5501），〔出〕大阪市此花區西野下町（電土佐堀45）	(長)藤原銀次郎 (專)松本 烈造 (專)井上 寶一 (副)高島菊次郎 (專)田中 治朗 (專)足立 正	明治 6. 2	300,000 (224,994)	1.0	5. 11	野田工場 泊居工場	秋山晴雄 金子三明	樺太野田町 樺太泊居町	樺太材 樺太材	大正10. 12 大正 4. 8	14,400 5,600	6,300 37,800	ダイゼスター ダイゼスター
	（興安嶺パルプ）	未定（滿洲國半官半民會社）	未定	未定	100,000	—	—	未定			滿洲材	未定	50,000		
新原料パルプ會社（計畫中のものを含む）	旭電化工業	東京市麴町區丸ノ内3ノ10（電丸ノ内3191），〔出〕大阪市北區曾根崎上2ノ11（電北1484），名古屋市西區伊倉町1ノ8（電本局1568）	(長)古河 從純	大正 6. 1	5,000 (3,500)	1.2	5. 11	尾久工場	熊谷直記	東京市荒川區尾久町9丁目	稻藁	昭和12年		7,000	
	岡山製紙	岡山市濱野（電2417）	(長)中村純一郎 (常)池上 强三	明治40. 2	1,000 (625)	1.2	5. 11	岡山工場		岡山市濱野	麥藁	昭和14. 4		6,000	
	倉敷絹織	倉敷市元町479（電10），〔營〕大阪市東區今橋4三菱信託ビル（電北濱6203）	(長)大原孫三郎 (常)高橋 年吉 (副)神社 柳吉	大正15. 6	50,000 (30,000)	1.0	5. 11	岡山工場	橋本富三郎	岡山市福島	麥藁，稻藁	昭和14年春	7,000		ダイゼスター
	康德葦パルプ	滿洲國營口三家子	(代表取締)倉地 四郎	昭和11年	5,000 (2,500)	無	5. 11	營口工場	元木八左衛門	滿洲國營口三家子	葦	昭和13. 2	7,000		
	新日本砂糖工業	臺灣臺南州新營郡太子宮	(長)樹 哲 (常)岡田幸三郎	昭和13. 4	25,000 (6,250)	無		太子宮工場	影山光三	臺南州新營郡太子宮	バガス	昭和14. 6		15,000 (第1期)	
	大日本纖維工業	東京市日本橋區江戸橋1加賀ビル（電日本橋441）	(長)吉田 治也 (專)一ノ瀬貫一	昭和12. 3	1,000 (全額拂込)	無	5. 11	一關工場	下村欽太郎	岩手縣西磐井郡一關町	稻藁	昭和13. 2	7,200		
	臺灣興業	臺灣臺北州羅東郡五結庄四結（電羅東25），〔出〕東京市麴町區丸ビル（電丸ノ内3245）	(會長)田中榮八郎 (專)大川 鉞雄 (長)松井 眞平 (常)迫本 實	昭和10. 3	8,000 (4,500)	0.7	5. 11	二結工場 羅東工場	小野田正榮 小野田正榮	臺北州羅東郡五結庄二結 臺北洲羅東郡五結庄四結	バガス，鬼萱 バガス，鬼萱	昭和 8. 10 昭和12. 4		5,250 22,750	
	臺灣パルプ工業	臺灣臺中州大甲郡大肚莊，〔假事務所〕臺中市橋町4ノ43	(長)赤司初太郎	昭和13. 2	10,000 (2,500)	無	3. 9	大肚工場	萩原鐵藏	臺中洲大甲郡大肚莊大肚	バガス	昭和13. 12		7,500 (初年度)	ダイゼスター
	帝國纖維パルプ	東京市京橋區銀座西4ノ3（電京橋6925）	(專)堀 善藏 (常)金澤 柳壽	昭和13. 6	500 (125)	無	6. 12	津田沼工場	渡邊菊藏	千葉縣津田沼工場	海草	昭和13. 8		1,800	蒸解タンク 延展機
	東京人絹	東京市日本橋區大傳馬町2（電浪花191），〔營〕大阪市東區備後町2（電本町1709）	(長)町田德之助 (常)渡邊 定二 (專)下鄕 豐彦 (〃)小島 喜六	大正15. 4	15,000 (12,750)	0.8	5. 11	未定		沼津近郊或ひは豊橋市外	桑篠	未定	4,000		
	東武製紙工業	東京市板橋區下赤塚5428（電赤羽2722）	(專)下村 純二	昭和12. 6	500 (125)	1.0	5. 11	本社工場	宮本吉次郎	東京市板橋區下赤塚	稻藁	昭和13. 2		1,800	
	東洋紡績	大阪市北區堂島濱通2（電北1600），〔支店〕名古屋市中區廣小路通7愛生ビル（電本局2141）〔出〕東京市日本橋區小網町1ノ3（電茅場町5459）	(長)庄司 乙吉 (〃)種田 健藏 (專)伊藤 傳七 (〃)關 桂三	大正 3. 6	72,725 (全額拂込)	1.8	5. 11	犬山工場	東畑泰三郎	愛知縣丹羽郡犬山町大字木津字前畑	桑篠	昭和13年末	10,000		ダイゼスター
	東洋製紙工業	神戸市神戸區海岸通5商船ビル（電三宮338）〔支社〕天津法租界8號路113	(專)小森 太 (常)長松 宗一 (常)竹内 象藏	昭和11. 9	10,000 (4,000)	無	5. 11	天津工場	未定	天津縣灰堆鎮	葦及び滿洲材	昭和13. 9		20,000	ダイゼスター
	富國人絹パルプ	大阪市東區高麗橋4ノ35（電北濱3353）	(長)伊藤竹之助 (專)淵田 太郎	昭和12. 11	10,000 (2,500)	無	10月	祖父江工場	岩間清也	愛知縣中島郡祖父江町	麻殼	昭和14. 4	6,000		
	滿洲豆稈パルプ	滿洲國開原掏鹿大街（電開原350），〔出〕東京市日本橋區大傳馬町2傳馬ビル（電浪速2960）	(長)酒井伊四郎 (常)戸倉 誠司	昭和12. 9	10,000 (5,000)	無	5. 11	開原工場	未定	滿洲國開原	豆稈	昭和14. 2	15,000		ダイゼスター
	ラサパルプ工業	大阪市西淀川區高見町1ノ64（電土佐堀7030），〔支店〕東京市京橋區京橋1ノ2	(長)小野 義夫 (顧問)莊司市太郎 (專)小島甚太郎	昭和13. 5	2,500 (1,250)	無	3. 9	大阪工場	大森臺三郎	大阪市西淀川區高見町1丁目	稻藁	昭和13. 1		7,200	ダイゼスター
	（名古屋パルプ創設）	未定	未定	昭和13夏	1,100 (275)	無		名古屋工場	未定	名古屋市中區江越町	稻藁	未定		6,000	

)成田　努	康德 3. 9	10,000 (5,000)	無	3. 9	石　覩　工　場	岡　井　潤　吉	間島省石覩（圖佳線石覩驛）	滿　洲　材	昭和13. 10	14,000	1,000	ダイゼスター2 パルプマシン1	日本毛織，三菱製紙，伊藤忠	現在工場建設中
	昭和 3. 12	2,500 (1,625)			大　開　工　場		大阪市此花區大開町	樺　太　材 內　地　材			6,500	グラインダー2		主として自家用
)金井　滋直	昭和12. 3	30,000 (7,500)	無	5. 11	富　山　工　場	中　村　一　元	富山市中島16	樺　太　材 カ　ナ　ダ　材	昭和13. 7	20,000		ダイゼスター2	日本曹達	當社製品の中約5,000噸は八代工場へ供給，其の他は市販す
	大正 7. 3	3,000 (2,250)	0.7	5. 11	本　社　工　場	木　村　季　吉	東京市王子區袋町1丁目	樺　太　材 內　地　材	昭和 4 年		7,000			碎木パルプ製造計畫中
	昭和11. 8	10,000 (5,000)	無	10月	敦　化　工　場	金　庭　秀　松	滿洲國吉林省敦化	滿　洲　材	昭和13. 8	10,000		ダイゼスター2	王子證券	次年度生產高は人絹用 15,000噸
)光澤　義男)勝口　新平	昭和 7. 4	20,000 (全額拂込)	1.0	5. 11	敷　香　工　場	木　下　又　三　郎	樺太敷香町	樺　太　材	昭和10. 6	30,000	15,000	ダイゼスター7	王子證券	
)當田健次郎)兒玉　清助	昭和12. 6	20,000 (5,000)	無	4. 10	飫　肥　工　場	兒　玉　清　助	宮崎縣南那珂郡吾田村一里松	內　地　材（杉）	昭和13. 9	20,000		ダイゼスター4	壽織維工業，仁壽生命，藤本ビルブローカー	當社への原木供給は子會社日興木材が當つてゐる
)覺張　義平	明治40. 5	12,000 (7,500)	1.0	5. 11	新　潟　工　場	小　林　宗　作	新潟市沼垂町1573	北　洋　材 內　地　材	大正 4 年		42,500	ダイゼスター3 グラインダー9	山口誠太郎，田村文之助 覺張義平，小川清一郎	生產能力は本年 9 月完成すべき增設の分を含む。新潟板紙を合併に決定，よつて資本金は1315萬圓となる筈
)中村　恒)小林　宗作	昭和12. 5	6,000 (4,500)	0.5	5. 11	新　潟　工　場	小　林　宗　作	新潟市外石山村鵄叉	カ　ナ　ダ　材	昭和13. 4	20,000		ダイゼスター2	北越製紙	
)足立　正)横井半三郎	昭和10. 4	20,000 (10,000)	1.0	3. 9	吉　州　工　場	片　平　憲　次　郎	咸興北道吉州郡英北面	朝　鮮　材	昭和11. 11	22,000		ダイゼスター7	王子證券，秋田秀穗，東拓，鮮銀	吉州地方に於ける山火事罹災立木を利用して年產 5,000噸の人絹用パルプ製造に着手す
)高橋　鎌逸	昭和 9. 5	10,000 (5,000)	無	3. 9	樺　林　工　場	奥　田　保　邦	滿洲國牡丹江市樺林	滿　洲　材	昭和13. 6	10,000 (初年度)		ダイゼスター2	三菱製紙，寺田元之助，植村證三郎，大倉喜七郎	次年度生產高 15,000噸（但し人絹用8,000噸，製紙用7,000噸）。當社は滿洲パルプ工業股份有限公司の投資會社なりしが，今回解散，事業會社のみ殘れり
)高島菊次郎)田中　治朗)足立　正	明治 6. 2	300,000 (224,994)	1.0	5. 11	野　田　工　場 泊　居　工　場	秋　山　晴　雄 金　子　三　明	樺太野田町 樺太泊居町	樺　太　材 樺　太　材	大正10. 12 大正 4. 8	14,400 5,600	6,300 37,800	ダイゼスター2 ダイゼスター5	王子證券，藤原合資，三井合名，大川合名	當社の製紙用パルプ製造工場は此の外に22工場（生產能力合計 737,000 噸）あれど煩を避け此處には人絹パルプ工場のみ記載せり。當社は子會社の擴張建設及び當社自身の增設に充當する爲近く第 3 回拂込徵集せん
	未　定	100,000	—	—	未　定			滿　洲　材	未　定	50,000			滿洲國政府側5割，人絹，製紙，ス・フの三聯合會側 5 割	小興安嶺の豐富なる森林を利用し人絹用，製紙用にパルプ初年度5萬噸，次年度23萬噸を生產せんとして現在設立計畫中なり
	大正 6. 1	5,000 (3,500)	1.2	5. 11	尾　久　工　場	熊　谷　直　記	東京市荒川區尾久町 9 丁目	稻　藁	昭和12年		7,000		古河合名，日本證券，帝國生命，恒信社	尾久パルプ工場は現在增產設備工事中，完成すれば年產 1 萬噸になる，大阪吹田工場は當局に於いて許可保留中
)穗上　强三	明治40. 2	1,000 (625)	1.2	5. 11	岡　山　工　場		岡山市濱野	麥　藁	昭和14. 4		6,000		岡崎共同，赤木吉太郎，中村純一郎，伊原木彌平	倉敷絹織より技術的指導を受け藁パルプ計畫中，將來人絹用パルプ製造に乘り出すか，現在工場建設中
)神社　柳吉	大正15. 6	50,000 (30,000)	1.0	5. 11	岡　山　工　場	橋　本　富　三　郎	岡山市福島	麥　藁，稻　藁	昭和14年春	7,000		ダイゼスター3	倉敷紡績，大原合資，住友本社，住友鑛業	現在工場建設中，新居濱工場內にも日產20噸のパルプ工場建設の豫定
5	昭和 11 年	5,000 (2,500)	無	5. 11	營　口　工　場	元　木　八　左　衛　門	滿洲國營口三家子	葦	昭和13. 2	7,000			鐘　紡	營口工場は倍額增產の準備中，新義州にも葦パルプ工場建設中，本年中に完成，日產20噸。當社は近く設立される鐘紡實業株式會社（資本金 6 千萬圓）に收吸される筈
)岡田幸三郎	昭和13. 4	25,000 (6,250)	無		太　子　宮　工　場	影　山　光　三	臺南州新營郡太子宮	バ　ガ　ス	昭和14. 6		15 000 (第1期)		鹽水港製糖	第 2 期生產高 3 萬噸，第 3 期 6 萬噸の豫定，第 2 期以後はバガス以外に銀合歡木を併用。太子宮工場に續いて壽工場，溪州工場を建設の豫定
)一ノ瀨貫一	昭和12. 3	1,000 (全額拂込)	無	5. 11	一　關　工　場	下　村　欽　太　郎	岩手縣西磐井郡一關町	稻　藁	昭和13. 2	7,200				すでにストローパルプ，ストローフアイバーなる製品を發賣せり
)松井　眞平)近本　實	昭和10. 3	8,000 (4,500)	0.7	5. 11	二　結　工　場 羅　東　工　場	小　野　田　正　榮 小　野　田　正　榮	臺北州羅東郡五結庄二結 臺北洲羅東郡五結庄四結	バガス，鬼　萱 バガス，鬼　萱	昭和 8. 10 昭和12. 4	5,250 22,750			大川合名，臺灣證券，松本眞平，仁壽生命	二結工場は舊臺灣紙業の工場，當社は昭和12年 1 月臺灣紙業を合併せり。製糖會社のパルプ工業進出により當社は原料入手難に陷る
	昭和13. 2	10,000 (2,500)	無	3. 9	大　肚　工　場	萩　原　鐵　藏	臺中洲大甲郡大肚莊大肚	バ　ガ　ス	昭和13. 12		7,500 (初年度)	ダイゼスター9	大日本製糖，昭和製糖，鐘紡	次年度生產高は 15,000噸，將來5萬噸まで擴張の豫定
)金澤　柳壽	昭和13. 6	500 (125)	無	6. 12	津田沼工場	渡　邊　菊　藏	千葉縣津田沼工場	海　草	昭和13. 8		1,800	蒸解タンク 10 延　展　機 10		將來年產 10,000～18,000 噸に增產の豫定（準絹織用パルプを含む）
)下郷　豐彦)小島　喜六	大正15. 4	15,000 (12,750)	0.8	5. 11	未　定		沼津近郊或ひは豐橋市外	桑　條	未　定	4,000			仁壽生命，二德商會，小布施新三郎，町田德之助	當初の計畫 15,000噸は商工省の方針により日產10噸程度に壓縮さる，從つて倍額增資案は不許可か
	昭和12. 6	500 (125)	1.0	5. 11	本　社　工　場	宮　本　吉　次　郎	東京市板橋區下赤塚	稻　藁	昭和13. 2		1.800		下村純二，渡邊研三，仁壽生命	特許曹達處理法による，將來年產15000噸に擴張の筈
)伊藤　傳七)關　桂三	大正 3. 6	72,725 (全額拂込)	1.8	5. 11	犬　山　工　場	東　畑　泰　三　郎	愛知縣丹羽郡犬山町大字木津字前畑	桑　條	昭和13年末	10,000		ダイゼスター2	伊藤合名，日本生命，帝國生命，第一生命	松花江沿岸の猫柳より人絹用パルプ製造を研究中，13年 8 月15日犬山工場建設起工式
)竹內　象藏	昭和11. 9	10.000 (4.000)	無	5.11	天　津　工　場	未　定	天津縣灰埠鎮	葦及び　滿洲材	昭和13. 9		20.000	ダイセスター2	旭シルク，野村合名	特許重亞硫酸マグネシア法により葦パルプを製造す，目下工場建設中，パルプより抄紙までの一貫作業。なほ當社は濟南の華人抄紙廠を買收せり
)岡田　太郎	昭和12. 11	10,000 (2,500)	無	10月	祖父江工場	岩　間　清　也	愛知縣中島郡祖父江町	麻　殼	昭和14. 4	6,000			伊藤忠商事，吳羽紡績	將來他地方に工場を設け年產10萬噸迄擴張の由
)戸倉　誠司	昭和12. 9	10,000 (5,000)	無	5. 11	開　原　工　場	未　定	滿洲國開原	豆　稈	昭和14. 2	15,000		ダイゼスター5	滿洲國政府，滿鐵，酒井伊四郎，野村合名	開原工場は 5 萬噸迄擴張，更に分散的に工場を設け將來は20萬噸生產の豫定なり
)小島其太郎	昭和 13.5	2.500 (1,250)	無	3. 9	大　阪　工　場	大　森　臺　三　郎	大阪市西淀川區高見町 1 丁目	稻　藁	昭和13. 1		7.200	ダイゼスター2	ラサ工業，黑川商店，大阪屋，山一證券	大阪工試片山徹吉氏の鹽素處理法による，將來人絹用パルプをも生產の豫定なりといふ

	北鮮製紙化學工業	朝鮮咸興北道吉州郡英北面（〔出〕東京市麹町區有樂町三信ビル）	（長）藤原銀次郎（副）足立正（専）藤原喜藏（専）横井半三郎	昭和10. 4	20,000 (10,000)	1.0	3. 9	吉州工場	片平憲次郎	咸興北道吉州郡英北面	朝鮮材	昭和11. 11	22,000		ダイセス	
	滿洲パルプ工業	大阪市北區中之島2ノ25（電北濱2985），〔出〕新京特別市錦町3ノ1	（長）寺田元之助（専）高橋錬逸	昭和 9. 5	10,000 (5,000)	無	3. 9	樺林工場	奥田保邦	滿洲國牡丹江市樺林	滿洲材	昭和13. 6	10,000 (初年度)		ダイセス	
	王子製紙	東京市王子區王子町（電小石川204），〔營〕東京市麹町區有樂町三信ビル（電銀座5501），〔出〕大阪市此花區西野下町（電土佐堀45）	（長）藤原銀次郎（副）高島菊次郎（専）松本弘遠（専）田中治朗（専）井上豊一（専）足立正	明治 6. 2	300,000 (224,994)	1.0	5. 11	野田工場 泊居工場	秋山晴雄 金子三明	樺太野田町 樺太泊居町	樺太材 樺太材	大正10. 12 大正 4. 8	14,400 5,600	6,300 37,800	ダイセス ダイセス	
	（興安嶺パルプ）	未定（滿洲國半官半民會社）	未定	未定	100,000	—	—	未定			滿洲材	未定	50,000			
新原料パルプ會社（計畫中のものを含む）	旭電化工業	東京市麹町區丸ノ内3ノ10（電丸ノ内3191），〔出〕大阪市北區曾根崎上2ノ11（電北1484），名古屋市西區伊倉町1ノ8（電本局1568）	（長）古河從純	大正 6. 1	5,000 (3,500)	1.2	5. 11	尾久工場	熊谷直記	東京市荒川區尾久町9丁目	稻藁	昭和12年		7,000		
	岡山製紙	岡山市濱野（電2417）	（長）中村純一郎（常）池上强三	明治40. 2	1,000 (625)	1.2	5. 11	岡山工場		岡山市濱野	麥藁	昭和14. 4		6,000		
	倉敷絹織	倉敷市元町479（電10），〔營〕大阪市東區今橋4三菱信託ビル（電北濱6203）	（長）大原孫三郎（副）神社柳吉（常）高橋雄吉	大正15. 6	50,000 (30,000)	1.0	5. 11	岡山工場	橋本富三郎	岡山市福島	麥藁，稻藁	昭和14年春	7,000		ダイセス	
	康德葦パルプ	滿洲國營口三家子	（代表取締）倉地四郎	昭和 11 年	5,000 (2,500)	無	5. 11	營口工場	元木八左衛門	滿洲國營口三家子	葦	昭和13. 2	7,000			
	新日本砂糖工業	臺灣臺南州新營郡太子宮	（長）樓哲（常）岡田幸三郎	昭和13. 4	25,000 (6,250)	無		太子宮工場	彭山光三	臺南州新營郡太子宮	バガス	昭和14. 6		15,000 (第1期)		
	大日本纖維工業	東京市日本橋區江戸橋1加賀ビル（電日本橋441）	（長）吉田浩也（専）一ノ瀬貫一	昭和12. 3	1,000 (全額拂込)	無	5. 11	一關工場	下村欽太郎	岩手縣西磐井郡一關町	稻藁	昭和13. 2	7,200			
	臺灣興業	臺灣臺北州羅東郡五結庄四結（電羅東 25），〔出〕東京市麹町區丸ビル（電丸ノ内3245）	（會長）田中榮八郎（長）松井眞平（専）大川鐵雄（常）迫本實	昭和10. 3	8,000 (4,500)	0.7	5. 11	二結工場 羅東工場	小野田正榮 小野田正榮	臺北州羅東郡五結庄二結 臺北洲羅東郡五結庄四結	バガス，鬼萱 バガス，鬼萱	昭和 8. 10 昭和12. 4		5,250 22,750		
	臺灣パルプ工業	臺灣臺中州大甲郡大肚莊，〔假事務所〕臺中市橋町4ノ43	（長）赤司初太郎	昭和13. 2	10,000 (2,500)	無	3. 9	大肚工場	萩原鐵藏	臺中洲大甲郡大肚莊大肚	バガス	昭和13. 12		7,500 (初年度)	ダイセス	
	帝國纖維パルプ	東京市京橋區銀座西4ノ3（電京橋6925）	（專）堀半藏（常）金澤柳壽	昭和13. 6	500 (125)	無	6. 12	津田沼工場	渡邊菊藏	千葉縣津田沼工場	海草	昭和13. 8		1,800	蒸解タン 延展	
	東京人絹	東京市日本橋區大傳馬町2（電浪花191），〔營〕大阪市東區備後町2（電本町1709）	（長）町田德之助（專）下鄕豊彦（常）渡邊定二（〃）小島喜六	大正15. 4	15,000 (12,750)	0.8	5. 11	未定		沼津近郊或ひは豊橋市外	桑篠	未定	4,000			
	東武製紙工業	東京市板橋區下赤塚5428（電赤羽2722）	（專）下村純二	昭和12. 6	500 (125)	1.0	5. 11	本社工場	宮本吉次郎	東京市板橋區下赤塚	稻藁	昭和13. 2		1,800		
	東洋紡績	大阪市北區堂島濱通2（電北1600），〔支店〕名古屋市中區廣小路通7愛生ビル（電本局2141）〔出〕東京市日本橋區小網町1ノ3（電茅場町5459）	（長）庄司乙吉（專）伊藤傳七（〃）種田健藏（〃）關桂三	大正 3. 6	72,725 (全額拂込)	1.8	5. 11	犬山工場	東畑泰三郎	愛知縣丹羽郡犬山町大字木津字前畑	桑篠	昭和13年末	10,000		ダイセス	
	東洋製紙工業	神戸市神戸區海岸通5商船ビル（電三宮338）〔支社〕天津法租界8號路113	（專）小森太（常）竹內象藏（常）長松宗一	昭和11. 9	10,000 (4,000)	無	5. 11	天津工場	未定	天津縣灰堆鎭	葦及び滿洲材	昭和13. 9		20,000	ダイセス	
	富國人絹パルプ	大阪市東區高麗橋4ノ35（電北濱3353）	（長）伊藤竹之助（專）濱田太郎	昭和12. 11	10,000 (2,500)	無	10月	祖父江工場	岩間清也	愛知縣中島郡祖父江町	麻殼	昭和14. 4	6,000			
	滿洲豆稈パルプ	滿洲國開原掘鹿大街（電開原350）〔出〕東京市日本橋區大傳馬町2傳馬ビル（電浪速2960）	（長）酒井伊四郎（常）戸倉誠司	昭和12. 9	10,000 (5,000)	無	5. 11	開原工場	未定	滿洲國開原	豆稈	昭和14. 2	15,000		ダイセス	
	ラサパルプ工業	大阪市西淀川區高見町1ノ64（電土佐堀7030），〔支店〕東京市京橋區京橋1ノ2	（長）小野義夫（專）小島甚太郎（顧問）莊司市太郎	昭和 13.5	2,500 (1,250)	無	3. 9	大阪工場	大森豪三郎	大阪市西淀川區高見町1丁目	稻藁	昭和13. 1		7,200	ダイセス	
	（名古屋パルプ製造）	未定	未定	昭和13夏	1,100 (275)	無		名古屋工場	未定	名古屋市中區江越町	稻藁	未定		6,000		

【備考】 以上の外現在計畫中のものに樺太大泊豊原地方の燕麥桿より製紙用パルプを製造せんとする**燕麥桿パルプ株式會社**（資本金1,000萬圓，年產8,400噸，未設立），千葉・靜岡・大分地方のマオランを利用する**日本フラックス・パルプ株式會**12,000噸），海草（スガモ）パルプの**明治化工株式會社**，熊笹パルプの**大日本パルプ株式會社**，藁パルプの**鐵興社**（實際には傍系三島工業をして製造に當らしむ），同じく藁パルプの**大阪青達株式會社**，萱パルプの**日本人造羊毛株式會社**，等あ圓，本社東京）は南洋カラオ樹より人絹及製紙パルプの製造を目的とするものなりしが，種々の事情により現在は計畫一頓挫の形なり。麥藁パルプの**東邦化學工業株式會社**（昭和12年12月創立，資本金16萬圓）は栃木縣下に工場建設中の由

)高島 菊次郎)田中 治朗)足立 正	明治 6. 2	300,000 (224,994)	1.0	5.11	野田工場 泊居工場	秋山晴輩 金子三明	樺太野田町 樺太泊居町	樺太材 樺太材	大正10.12 大正 4. 8	14,400 5,600	6,300 37,800	ダイゼスター2 ダイゼスター5	王子證券，藤原合資，三井合名，大川合名	當社の製紙用パルプ製造工場は此の外に22工場（生産能力合計737,000噸）あれど煩を避け此處には人絹パルプ工場のみ記載せり。當社は子會社の擴張建設及び當社自身の增設に充當する爲近く第3回拂込徵集せん	
	未定	100,000	—	—	未定			滿洲材	未定	50,000			滿洲國政府側5割，人絹，製紙，ス・フの三聯合會側5割	小興安嶺の豊富なる森林を利用し人絹用，製紙用にパルプ初年度5萬噸，次年度23萬噸を生産せんとして現在設立計畫中なり	
	大正 6. 1	5,000 (3,500)	1.2	5.11	尾久工場	熊谷直記	東京市荒川區尾久町9丁目	稻藁	昭和12年		7,000		古河合名，日本證券，帝國生命，恒信社	尾久パルプ工場は現在增產設備工事中，完成すれば年產1萬噸になる，大阪吹田工場は當局に於いて許可保留中	
)池上 强三	明治40. 2	1,000 (625)	1.2	5.11	岡山工場		岡山市濱野	麥藁	昭和14. 4		6,000		岡崎共同，赤木吉太郎，中村純一郎，伊原木彌平	倉敷絹織より技術的指導を受け藁パルプ計畫中，將來人絹用パルプ製造に乘り出すか，現在工場建設中	
)神社 柳吉	大正15. 6	50,000 (30,000)	1.0	5.11	岡山工場	橋本富三郎	岡山市福島	麥藁，稻藁	昭和14年春	7,000		ダイゼスター3	倉敷紡績，大原合資，住友本社，住友鑛業	現在工場建設中，新居濱工場內にも日產20噸のパルプ工場建設の豫定	
〃	昭和11年	5,000 (2,500)	無	5.11	營口工場	元木八左衛門	滿洲國營口三家子	葦	昭和13. 2	7,000			鐘紡	營口工場は倍額增產の準備中，新義州にも葦パルプ工場建設中，本年中に完成，日產20噸。當社は近く設立される鐘紡實業株式會社（資本金6千萬圓）に收吸される筈	
)岡田寺三郎	昭和13. 4	25,000 (6,250)	無		太子宮工場	彫山光三	臺南州新營郡太子宮	バガス	昭和14. 6		15,000 (第1期)		鹽水港製糖	第2期生產高3萬噸，第3期6萬噸の豫定，第2期以後はバガス以外に銀合歡木を併用。太子宮工場に續いて壽工場，溪州工場を建設の豫定	
)一ノ瀬貫一	昭和12. 3	1,000 (全額拂込)	無	5.11	一關工場	下村欽太郎	岩手縣西磐井郡一關町	稻藁	昭和13. 2	7,200				すでにストローパルプ，ストローフアイバーなる製品を發賣せり	
)松井 眞平)道本 實	昭和10. 3	8,000 (4,500)	0.7	5.11	二結工場 羅東工場	小野田正榮 小野田正榮	臺北州羅東郡五結庄二結 臺北洲羅東郡五結庄四結	バガス，鬼萱 バガス，鬼萱	昭和 8.10 昭和12. 4		5,250 22,750		大川合名，臺灣證券，松本眞平，仁壽生命	二結工場は舊臺灣紙業の工場，當社は昭和12年1月臺灣紙業を合併せり。製糖會社のパルプ工業進出により當社は原料入手難に陷る	
	昭和13. 2	10,000 (2,500)	無	3. 9	大肚工場	萩原鐵藏	臺中洲大甲郡大肚莊大肚	バガス	昭和13.12		7,500 (初年度)	ダイゼスター9	大日本製糖，昭和製糖，鐘紡	次年度生產高は15,000噸，將來5萬噸まで擴張の豫定	
)金澤 柳壽	昭和13. 6	500 (125)	無	6.12	津田沼工場	渡邊菊藏	千葉縣津田沼工場	海草	昭和13. 8		1,800	蒸解タンク 10 延展機 10		將來年產10,000～18,000噸に增產の豫定（準絹織用パルプを含む）	
)下郷 豊彦)小島 喜六	大正15. 4	15,000 (12,750)	0.8	5.11	未定		沼津近郊或ひは豊橋市外	桑篠	未定	4,000			仁壽生命，二德商會，小布施新三郎，町田德之助	當初の計畫15,000噸は商工省の方針により日產10噸程度に壓縮さる，從つて倍額增資案は不許可か	
	昭和12. 6	500 (125)	1.0	5.11	本社工場	宮本吉次郎	東京市板橋區下赤塚	稻藁	昭和13. 2		1,800		下村純二，渡邊研三，仁壽生命	特許曹達處理法による，將來年產15000噸に擴張の筈	
)伊藤 傳七)關 桂三	大正 3. 6	72,725 (全額拂込)	1.8	5.11	犬山工場	東畑泰三郎	愛知縣丹羽郡犬山町大字木津字前畑	桑篠	昭和13年末	10,000		ダイゼスター2	伊藤合名，日本生命，帝國生命，第一生命	松花江沿岸の猫柳より人絹用パルプ製造を研究中，13年8月15日犬山工場建設起工式	
)竹内 象藏	昭和11. 9	10,000 (4,000)	無	5.11	天津工場	未定	天津縣灰埠鎮	葦及び	滿洲材 昭和13. 9		20,000	ダイゼスター2	旭シルク，野村合名	特許重亞硫酸マグネシア法により葦パルプを製造す，目下工場建設中，パルプより抄紙までの一貫作業。なほ當社は濟南の華人抄紙廠を買收せり	
)淵田 太郎	昭和12. 11	10,000 (2,500)	無	10月	祖父江工場	岩間清也	愛知縣中島郡祖父江町	麻殼	昭和14. 4	6,000			伊藤忠商事，吳羽紡績	將來他地方に工場を設け年產10萬噸迄擴張の由	
)戸倉 誠司	昭和12. 9	10,000 (5,000)	無	5.11	開原工場	未定	滿洲國開原	豆稈	昭和14. 2	15,000		ダイゼスター5	滿洲國政府，滿鐵，酒井伊四郎，野村合名	開原工場は5萬噸迄擴張，更に分散的に工場を設け將來は20萬噸生產の豫定なり	
)小島 芸太郎	昭和 13.5	2,500 (1,250)	無	3. 9	大阪工場	大森臺三郎	大阪市西淀川區高見町1丁目	稻藁	昭和13. 1		7,200	ダイゼスター2	ラサ工業，黑川商店，大阪屋，山一證券	大阪工試片山徹吉氏の鹽素處理法による，將來人絹用パルプをも生產の豫定なりといふ	
	昭和13夏	1,100 (275)	無		名古屋工場	未定	名古屋市中區江越町	稻藁	未定		6,000		東京電氣，聯合紙器，保土ケ谷曹達	現在會社設立中	

より製紙用パルプを製造せんとする**燕麥桿パルプ株式會社**（資本金1,000萬圓，年產8,400噸，未設立），千葉・靜岡・大分地方のマオランを利用する**日本フラツクス・パルプ株式會社**（理研系，資本金500萬圓，第1期年產5,000噸，第2期
燕麥パルプの**大日本パルプ株式會社**，藁パルプの**鐵興社**（實際には傍系三島工業をして製造に當らしむ），同じく藁パルプの**大阪曹達株式會社**，萱パルプの**日本人造羊毛株式會社**，等あり。又昨年設立されし**南洋纖維工業株式會社**（資本金20萬
製造を目的とするものなりしが，種々の事情により現在は計畫一頓挫の形なり。麥藁パルプの**東邦化學工業株式會社**（昭和12年12月創立，資本金16萬圓）は栃木縣下に工場建設中の由。**大日本紡績株式會社**にも落棉パルプの計畫あり。

附奥　本邦パルプ會社紹介

昭和十三年九月十五日印刷
昭和十三年九月二十日發行

定價 四十錢・送料三錢

著者兼發行人
印刷人　宇野米吉

印刷所　日本社印刷所

發行所　合資會社 紡織雜誌社
大阪府泉北郡高石町羽衣五八
振替口座大阪三四五九〇番
電話濱寺二二六九番

本社營業所　大阪市西區京町堀通一丁目四五
電話土佐堀(44)240・468番
振替口座大阪64670番

名古屋營業所　名古屋市鶴舞公園前名銀ルビ三階
電話中三四二二番

東京營業所　東京市神田區鍛冶町一ノ一(今川橋會館)
電話神田(25)三七三一番

纖維素化學・人絹・スフ・パルプ
關係藥品工業に關する專門雜誌

月刊 **人絹界**

パルプ特に人造纖維用パルプに關聯ある人士は是非本誌を讀まれる必要がある。最高級の技術と經濟の渾然と綜合された本誌は今や世界的名聲をかち得て居る。

大型(菊倍版)70頁全アート紙使用・毎月15日發行・1冊1.20圓(郵税4錢)半年分前金7.20圓(郵税共)1ヶ年分前金14圓(郵税共)

發行所 合資會社 紡織雜誌社

大阪	東京	名古屋
大阪市西區京町堀通一	東京市神田館鍛冶町	名古屋市中區鶴舞公園
電話土佐堀240・468番	一ノ一(今川橋會館)	前(名銀ビル)
振替大阪64670番	電話神田3033・2574	電話中3422

特250
72

終